

# 齒科医師国家試験出題基準

平成26年版

厚生労働省医政局歯科保健課

# 目 次

平成 26 年版歯科医師国家試験出題基準改定の概要

歯科医師国家試験出題基準改定部会委員名簿

ブループリント（歯科医師国家試験設計表）

主な検査項目の表記

必修の基本的事項	1
歯科医学総論	
総論Ⅰ 保健医療論	14
総論Ⅱ 健康管理・増進と予防	15
総論Ⅲ 人体の正常構造と機能	17
総論Ⅳ 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能	18
総論Ⅴ 発生、成長、発達、加齢	19
総論Ⅵ 病因、病態	20
総論Ⅶ 主要症候	22
総論Ⅷ 診察	23
総論Ⅸ 検査	24
総論Ⅹ 治療	26
総論Ⅺ 歯科材料と歯科医療機器	29
歯科医学各論	
各論Ⅰ 歯科疾患の予防・管理	34
各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態	35
各論Ⅲ 歯・歯髄・歯周組織の疾患	39
各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患	41
各論Ⅴ 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎顔面の機能障害	49
各論Ⅵ 高齢者の歯科診療	52
索引	
欧文索引	56
邦文索引	57
参考	
歯科医師国家試験改善検討部会報告書	75



# 平成 26 年版歯科医師国家試験出題基準改定の概要

## 1. 歯科医師国家試験出題基準改定の経緯

歯科医師国家試験出題基準は、昭和 60 年に策定されて以来、歯科医療・歯学教育の変化に合わせて 4 年毎に改定し、内容の見直しを継続的に行っている。今回の改定は、平成 24 年 4 月に取りまとめられた「歯科医師国家試験制度改善検討部会報告書」の提言を踏まえて行った。

## 2. 歯科医師国家試験出題基準改定部会

平成 24 年 7 月 5 日に「歯科医師国家試験出題基準改定部会」を設置し、ワーキンググループを含め計 5 回の会議を開催して、現行（平成 22 年版）の歯科医師国家試験出題基準について議論のうえ改定作業を行った。

## 3. 改定の基本的な考え方

- (1) ブループリントの出題総数・必修問題数は、現行通りとした。
- (2) 臨床実習での学習成果を中心とした卒後臨床研修開始前の到達度を確認することに主眼を置き、歯学教育モデル・コア・カリキュラムで明示されている目標とも整合性を図った。
- (3) 国民のニーズに対応できる歯科医師を確保できるよう、以下に示す通り、最近、社会的な要請が強まっている事項に重点を置いた。
  - ① 下記 5 項目についての出題を更に充実したものとする。
    - ・ 歯科医師として必要な、高齢者や全身疾患を持つ者等への対応に関する出題（全身疾患、検査及び多職種連携等に関する出題）
    - ・ 「歯科口腔保健の推進に関する法律」の制定等を考慮した歯科疾患の予防管理に関する出題
    - ・ 医療保険、介護保険等を含む現行の社会保障制度に関する出題
    - ・ 口腔と全身との関係に関する出題（禁煙指導と支援、食育と食の支援等）
    - ・ 救急災害時の歯科保健医療対策・歯科法医学に関する出題
  - ② 下記 4 項目についての出題を引き続き行う。
    - ・ 児童虐待への対応
    - ・ 医療安全、感染対策、薬害等
    - ・ 放射線の人体に対する影響
    - ・ 診療に必要な医学英語
- (4) 歯科医師試験委員にとって使いやすい歯科医師国家試験出題基準とする観点から、構成等を改善し、歯科医師試験委員会の判断で頻度や緊急性の高い疾患を優先的に出題できるよう、可能な限り包括化・簡素化に努めた。



#### 4. 採用時期と問題の出題

今回、改定した出題基準は、第 107 回歯科医師国家試験（平成 26 年）から採用するが、改定当初は特に、出題基準の改定による受験者の混乱がないよう、現在の歯学部における授業内容等を考慮し、歯科医師試験委員会で問題の内容等について十分に議論を行ったうえで出題する。

#### 5. おわりに

本出題基準が正しく理解され、歯科医師試験委員によって活用されることにより、歯科医師国家試験が妥当な範囲と適切な水準で行われることを期待する。

## 歯科医師国家試験出題基準改定部会委員名簿

◎ 赤川 安正	広島大学大学院医歯薬保健学研究院教授
○ 石川 博之	福岡歯科大学教授
○ 齊藤 力	新潟大学大学院医歯学総合研究科教授
有地 榮一郎	愛知学院大学歯学部教授
池邊 哲郎	福岡歯科大学教授
磯崎 篤則	朝日大学歯学部教授
一戸 達也	東京歯科大学水道橋病院病院長
井上 富雄	昭和大学歯学部教授
植田 耕一郎	日本大学歯学部教授
大谷 啓一	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授
勝海 一郎	日本歯科大学生命歯学部教授
河合 達志	愛知学院大学歯学部教授
北川 善政	北海道大学大学院歯学研究科教授
島内 英俊	東北大学大学院歯学研究科教授
嶋田 昌彦	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授・病院長
杉山 芳樹	岩手医科大学附属病院副病院長（歯科医療センター長） 岩手医科大学歯学部教授
高田 隆	広島大学大学院医歯薬保健学研究院教授
土持 眞	日本歯科大学新潟生命歯学部教授
寺下 正道	九州歯科大学教授
平田 雅人	九州大学大学院歯学研究科教授
古市 保志	北海道医療大学歯学部教授
前田 健康	新潟大学大学院医歯学総合研究科長・歯学部長
三浦 宏之	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授
三宅 洋一郎	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部教授
宮脇 正一	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科教授・副研究科長
森崎 市治郎	大阪大学大学院歯学研究科教授・病院長
森田 学	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授
安井 利一	明海大学学長
矢谷 博文	大阪大学大学院歯学研究科教授

## 歯科医師国家試験出題基準改定部会作業委員名簿

朝田 芳信	鶴見大学歯学部教授
新井 一仁	日本歯科大学生命歯学部教授
井上 美津子	昭和大学歯学部教授
興地 隆史	新潟大学大学院医歯学総合研究科教授
長田 斎	杉並区役所保健福祉部長
金田 隆	日本大学松戸歯学部教授
兼松 隆	広島大学大学院医歯薬保健学研究院教授
菊谷 武	日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック院長
古郷 幹彦	大阪大学大学院歯学研究科教授
小正 裕	大阪歯科大学教授
佐々木 朗	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授
柴原 孝彦	東京歯科大学教授
渋谷 鑛	日本大学松戸歯学部教授
馬場 一美	昭和大学歯学部教授
日野出 大輔	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部教授
細川 隆司	九州歯科大学教授
前田 勝正	九州大学大学院歯学研究科教授
牧 茂	松本歯科大学教授
俣木 志朗	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授
宮崎 真至	日本大学歯学部教授
八若 保孝	北海道大学大学院歯学研究科教授
吉田 教明	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授
米山 隆之	日本大学歯学部教授
● 小室 歳信	日本大学歯学部教授
● 奈良 信雄	東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター長

(◎は部会長、○は部会長代理、●はオブザーバー、五十音順、敬称略)

# 歯科医師国家試験出題基準の利用法

## はじめに

歯科医師国家試験は、歯科医師法第9条に基づいて、「臨床上必要な歯科医学及び口くう衛生に関して、歯科医師として具有すべき知識及び技能について」行われる。第9条にいう「知識と技能」とは、臨床研修歯科医師として歯科医療に第一歩を踏み出し、指導歯科医の下でその任務を果たすのに必要な基本的知識及び技能であると考ええる。

その内容を具体的な項目によって示したのが、歯科医師国家試験出題基準（ガイドライン）（以下「出題基準」という。）である。歯科医師国家試験の妥当な内容、範囲及びレベルを確保するため、歯科医師試験委員（以下「試験委員」という。）は、この基準を踏まえて出題する。ただし、出題内容に関する最終的な判断は、試験委員会が行うものとする。

したがって、出題基準は歯学部卒前の歯学教育で扱われる内容の全てを網羅するものでなく、これらの教育のあり方を拘束するものでもない。

## 利用方法

### 1. 大・中・小項目、備考

（1）大項目は、中項目を束ねる見出しを示している。

（2）中項目は、歯科医師国家試験の出題の範囲となる事項、疾患、障害等を示している。

出題範囲という観点から配列されているため、必ずしも学問的な分類体系と一致するものではない。

（3）小項目は、次の①、②を示している。

① 中項目に関する内容のうち、さらに出題範囲を限定する場合。

中項目	小項目
ア 医の倫理、生命倫理	a 患者の人権と医療
	b ニュルンベルグ綱領、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言、ヒポクラテスの誓い
	c 守秘義務、プライバシーの尊重、法の遵守

※「医の倫理、生命倫理」では、「患者の人権と医療、ニュルンベルグ綱領、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言、ヒポクラテスの誓い、守秘義務、プライバシーの尊重、法の遵守」に関する問題しか出題できない。

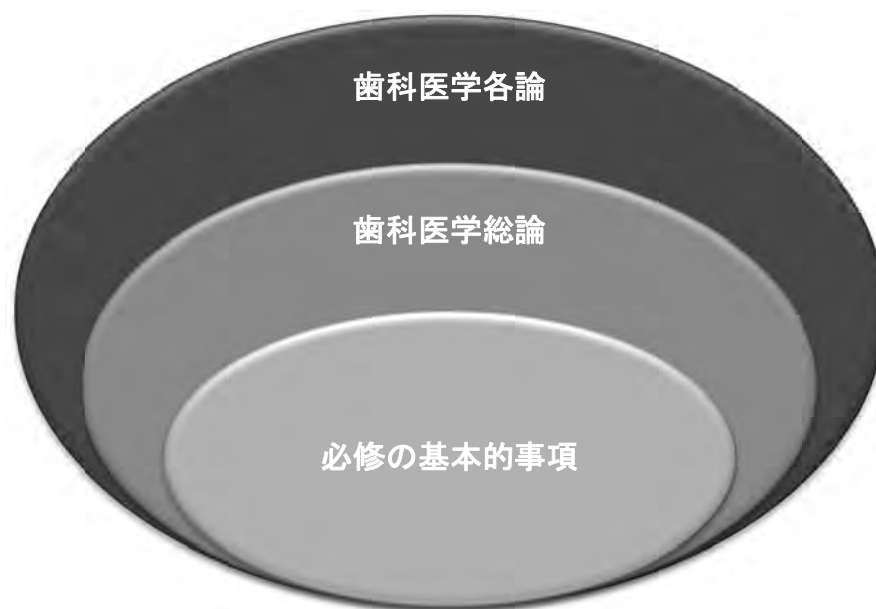
② 小項目の記載がない場合は、中項目について標準的な学生用教科書に記載されている程度の内容が出題範囲となる。また、教科書等に記載がない場合においても、臨床現場で必要とされる新しい情報等については、試験委員会の判断で出題できるものとする。

なお、「必修の基本的事項」、「歯科医学総論」及び「歯科医学各論」で小項目の記載量が異なっているが、これは、「必修の基本的事項」が歯科医師として必ず具有すべき基本的最低限度の知識であるという性質上、出題範囲の小項目を設定することで限定する必要があることと、「歯科医学総論」と「歯科医学各論」は、標準的な教科書等に記載されている程度の知識や臨床現場で要求される知識であるため、小項目による範囲の限定を行わず、必要に応じて試験委員会の判断で出題することを可能にするためである。

(4) 備考は、特に重要な項目等を示している。ただし、出題範囲を限定するものではない。

(5) 「歯科医学総論」においては「必修の基本的事項」の内容を、「歯科医学各論」においては「必修の基本的事項」と「歯科医学総論」の項目についても、それぞれ出題することができる。

出題範囲の概念図



## 2. ブループリント（歯科医師国家試験設計表）

### (1) 必修の基本的事項

「必修の基本的事項」では、各大項目に出題割合を記載している。これは、「必修の基本的事項」における全問題のうち、当該大項目に関する出題割合を示している。

### (2) 歯科医学総論、歯科医学各論

「歯科医学総論」と「歯科医学各論」では、各章に出題割合を記載している。これは、「歯科医学総論」または「歯科医学各論」における全問題のうち、当該章に関する出題割合を示している。

### 3. その他

- (1) 同一事象に対し異なる表現がある場合には、括弧書き等によってどちらも使用可能とした。試験委員会の判断で、括弧内・外の語を適宜使用できる。なお、括弧は以下のルールに基づいている。

(        ) 直前の語の説明      例；SOAP（主観的所見、客観的情報、評価、計画）  
〈        〉 直前の語の同義語      例；国際生活機能分類〈ICF〉  
[        ] 新旧語の並列      例；NGSP 値 [HbA1c 値]  
{        } 省略しても意味または分類が変わらない語      例；Blandin-Nuhn {腺} 嚢胞  
【例】 「主な検査項目」における表示の例示      例；点滴法【例】滴下法、全口腔法

- (2) 傷病名・障害名等は、一部で各論の章に重複して記載している。重複していない項目についても、章または大項目の標題である疾患・障害等に限定せずに出題することができる。

## ブループリント（歯科医師国家試験設計表）

### 「必修の基本的事項」（約 20%）

1	医の倫理と歯科医師のプロフェッショナルリズム	約 2%
2	社会と歯科医療	約 2%
3	予防と健康管理・増進	約 5%
4	歯科医療の質と安全の確保	約 7%
5	診療記録と診療情報	約 2%
6	人体の正常構造・機能	約 14%
7	人体の発生・成長・発達・加齢	約 7%
8	医療面接	約 4%
9	主要な症候	約 10%
10	診察の基本	約 4%
11	検査の基本	約 10%
12	臨床判断の基本	約 2%
13	初期救急	約 1%
14	主要な疾患と障害の病因・病態	約 12%
15	治療の基礎・基本手技	約 12%
16	チーム歯科医療	約 2%
17	一般教養的事項	約 4%

### 「歯科医学総論」（約 30%）

総論Ⅰ	保健医療論	約 12%
総論Ⅱ	健康管理・増進と予防	約 9%
総論Ⅲ	人体の正常構造と機能	約 5%
総論Ⅳ	歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能	約 9%
総論Ⅴ	発生、成長、発達、加齢	約 3%
総論Ⅵ	病因、病態	約 9%
総論Ⅶ	主要症候	約 4%
総論Ⅷ	診察	約 7%
総論Ⅸ	検査	約 16%
総論Ⅹ	治療	約 13%
総論Ⅺ	歯科材料と歯科医療機器	約 13%

### 「歯科医学各論」（約 50%）

各論Ⅰ	歯科疾患の予防・管理	約 6%
各論Ⅱ	成長発育に関連した疾患・病態	約 19%
各論Ⅲ	歯・歯髄・歯周組織の疾患	約 23%
各論Ⅳ	顎・口腔領域の疾患	約 23%
各論Ⅴ	歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎顔面の機能障害	約 23%
各論Ⅵ	高齢者の歯科診療	約 6%

## 主な検査項目の表記

出題に際して、主な検査項目の記載は以下に準拠する。また、略して標記することもある。なお、「2 血液学検査」、「3 生化学検査」、「4 免疫血清学検査」、「7 生体機能検査」及び「8 栄養学検査」については、「\*」のある検査項目以外は、出題に際して必ず基準値を記載する。

### 1. 一般臨床検査

分類	項目
尿検査	肉眼的所見
	尿量
	比重
	浸透圧
	pH
	尿蛋白
	尿糖
	ウロビリノゲン
	ケトン体
	ビリルビン
	アミラーゼ
	尿潜血
	尿沈渣所見
	細菌検査
	尿細胞診
	白血球反応
	妊娠反応
	【例】尿所見：尿蛋白 1+、糖(－)、沈渣に赤血球10-20/1視野、白血球多数/1視野、赤血球 円柱+。
糞便検査	肉眼的所見
	顕微鏡検査〈虫卵など〉
	便潜血反応
	細菌検査
喀痰検査	肉眼的所見
	細胞診
	細菌検査
脳脊髄液検査	圧〈Queckenstedt現象〉
	肉眼的所見
	初圧
	細胞数（種類）
	蛋白定量
	糖定量
	IgG%
	ミエリン塩基性タンパク
	クロール定量
	細菌検査
	細胞診
	オリゴクローナルバンド

分類	項目
穿刺液検査	肉眼的所見
	比重
	蛋白定量
	細胞数（種類）
	細胞診
	細菌検査

### 2 血液学検査

分類	項目
血球検査	赤血球 *
	ヘモグロビン (Hb) *
	ヘマトクリット (Ht) *
	平均赤血球容積 (MCV)
	平均赤血球ヘモグロビン (MCH)
	平均赤血球ヘモグロビン濃度 (MCHC)
	網赤血球
	白血球 *
	白血球分画 *
	血小板 *
	末梢血・骨髓血塗抹
	【例】血液所見：赤血球396万/ $\mu$ l、Hb 12.9g/dl、Ht 38%、網赤血球 1.2%、白血球7,800/ $\mu$ l（桿状核好中球 12%、分葉核好中球 51%、好酸球 2%、好塩基球 1%、単球 6%、リンパ球 28%）、血小板 20万/ $\mu$ l
	出血時間
	PT〈プロトロンビン時間〉（秒、%、* INRで表示）
	APTT〈活性化部分トロンボプラスチン時間〉
凝固・線溶・血小板機能検査	血漿アンチトロンビン
	トロンビン・アンチトロンビン複合体 (TAT)
	血漿フィブリノゲン
	血清FDP
	Dダイマー
	プラスミン・プラスミンインヒビター複合体 (PIC)
	血小板凝集能



分類	項目
溶血に関する検査	赤血球浸透圧抵抗試験
	Ham試験
輸血関連検査	血液型
	交差適合試験〈クロスマッチ〉
赤沈	赤沈 *

### 3 生化学検査

分類	項目
蛋白・蛋白分画	総蛋白〈TP〉 *
	蛋白分画
	アルブミン〈A1b〉 *
	$\alpha_1$ ・ $\beta_2$ -マイクログロブリン
	IgG
	IgA
	IgM
	IgE
	フェリチン
	心筋トロポニンT
	心筋トロポニンI
生色体素	総ビリルビン *
	直接ビリルビン *
酵素、アイソザイム	AST *
	ALT *
	LD〈LDH〉
	ALP
	$\gamma$ -GTP〈 $\gamma$ GT〉
	コリンエステラーゼ〈ChE〉
	アミラーゼ
	リパーゼ
	CK
	CK-MB
	アンジオテンシン変換酵素〈ACE〉
含窒素成分	尿素窒素〈UN, BUN〉 *
	クレアチニン〈Cr〉 *
	尿酸〈UA〉
	アンモニア
糖代謝関連	{随時}血糖 *
	空腹時血糖 *
	ブドウ糖負荷試験〈OGTT〉
	NGSP値 [HbA1c値] *

分類		項目
脂質代謝関連		総コレステロール 〈TC〉 *
		トリグリセライド 〈TG〉 *
		HDLコレステロール
		LDLコレステロール
電解質・酸塩基平衡		Na *
		K *
		Cl
		Ca
		P
		Mg
		浸透圧
微量元素		Cu
		Fe *
		Zn
		TIBC 〈鉄結合能〉
		UIBC 〈不飽和鉄結合能〉
ビタミン		ビタミンB <sub>1</sub>
		ビタミンB <sub>12</sub>
		葉酸
ホルモン	下垂体	TSH 〈甲状腺刺激ホルモン〉
		GH 〈成長ホルモン〉
		LH 〈黄体化ホルモン〉
		ACTH 〈副腎皮質刺激ホルモン〉
		FSH 〈卵胞刺激ホルモン〉
		PRL 〈プロラクチン〉
		ADH 〈抗利尿ホルモン、バソプレシン〉
	甲状腺	FT <sub>3</sub> 〈遊離トリヨードサイロニン〉
		FT <sub>4</sub> 〈遊離サイロキシン〉
		甲状腺 <sup>123</sup> I摂取率
		サイログロブリン
		カルシトニン
	副甲状腺 <small>（上皮下体）</small>	PTH 〈副甲状腺ホルモン〉
	副腎	コルチゾール
		アルドステロン
		17α-ヒドロキシprogテストロン
		アドレナリン
		ノルアドレナリン
	消化管	ガストリン

分類	項目
ホルモン	膵島 インスリン
	グルカゴン
	Cペプチド 〈CPR〉
	腎臓 血漿レニン活性 〈PRA〉
	アンジオテンシン
	エリスロポエチン
	性腺・胎盤 エストラジオール 〈E <sub>2</sub> 〉
	エストリオール 〈E <sub>3</sub> 〉
	プロゲステロン
	テストステロン
	絨毛性ゴナドトロピン 〈hCG〉
	心臓 心房性ナトリウム利尿ペプチド 〈H. ANP〉
	心室性ナトリウム利尿ペプチド 〈BNP〉
	尿中ホルモン 5-ヒドロキシインドール酢酸 〈5-HIAA〉
	遊離コルチゾール
	カテコラミン
	バニルマンデル酸 〈VMA〉
腫瘍マーカー	α-フェトプロテイン 〈AFP〉
	CEA
	CA19-9
	CA125
	SCC
	PSA
線維化カー	RL-6

#### 4 免疫血清学検査

分類	項目
炎症マーカー	C反応性蛋白 〈CRP〉 *

分類	項目
感染の抗原・抗体	梅毒血清反応
	Weil-Felix反応
	ASO
	トキソプラズマ抗体
	寒冷凝集反応
	マイコプラズマ抗体
	ウイルス血清反応
	β-D-グルカン
	HTLV-I抗体
	HIV抗体
自己抗体	HBs抗原・HBs抗体
	HCV抗体
	リウマトイド因子 〈RF〉
	抗CCP抗体
	抗好中球細胞質抗体 〈ANCA〉
	LE細胞
	抗核抗体
	抗DNA抗体
	抗ssDNA抗体
	抗dsDNA抗体
	抗RNP抗体
	抗Sm抗体
	抗SS-A抗体
	抗SS-B抗体
	抗Jo-1抗体
	抗Scl-70抗体
	抗ミトコンドリア抗体
	抗平滑筋抗体
	抗サイログロブリン抗体
	抗甲状腺ペルオキシダーゼ 〈TPO〉抗体
	抗TSH受容体抗体
	直接・間接Coombs試験
	抗アセチルコリン受容体抗体
	抗デスモグレイン3抗体
	抗BP180抗体
免疫蛋白	免疫電気泳動
	Bence Jones 蛋白
アレルギーに関する検査	アレルギー検査
	IgE、特異的IgE
	皮膚反応 〈パッチテスト、皮内反応〉
	誘発試験

分類	項目
補 体	血清補体価 (CH <sub>50</sub> )、C3、C4
	免疫複合体
細食 菌 免 能 検 査 ・ 査	リンパ球表面抗原検査
	CD4/8比
	好中球機能検査
	リンパ球刺激試験
	ツベルクリン反応
移免 植 疫	組織適合検査 【例】HLA-B27

## 5 微生物学検査

分類	項目
病 原 体 検 査	塗抹標本の顕微鏡観察【例】結果はグラム陰性桿菌などと表記、結核・抗酸菌の場合はGaffky号数で表記
	培養法【例】嫌気培養法
	同定法【例】生化学的方法、免疫学的方法、遺伝学的方法。結果は <i>Porphyromonas gingivalis</i> などと表記
	薬剤感受性試験【例】微量液体希釈法、ディスク法。結果はメチシリン耐性などと表記
	遺伝子検査
	微生物の学名はイタリック体で表記。ただしウイルス名はローマン体で表記 【例】 <i>Staphylococcus aureus</i> , Poliovirus

## 6 病理組織学検査、細胞診

分類	項目
光顕・電顕標本	
染 色 法	Hematoxylin-eosin染色〈H-E染色〉
	SudanⅢ染色
	PAS染色
	Congo-Red染色
	Gram染色
	Ziehl-Neelsen染色
	Grocott染色
	May-Giemsa染色
	Papanicolaou染色
	【例】舌生検H-E標本、生検材料の電顕写真、ケラチン免疫染色、ペルオキシダーゼ酵素組織化学

## 7 生体機能検査

分類	項目
動 脈 血 ガ ス 分 析	pH *
	PaCO <sub>2</sub> *
	PaO <sub>2</sub> *
	HCO <sub>3</sub> <sup>-</sup>
	BE
	【例】動脈血ガス分析(自発呼吸、room air) : pH 7.41、PaCO <sub>2</sub> 41 Torr、PaO <sub>2</sub> 83 Torr
呼 機 吸 能	%VC
	FEV <sub>1</sub> %
	経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO <sub>2</sub> 〉 *
心 機 能	{12誘導}心電図
	運動負荷心電図
	心臓超音波検査
	心臓カテーテル検査
消 化 器 系	唾液分泌検査
	胃液検査
	消化管内圧検査
	色素排泄試験
	BT-PABA排泄試験
内 分 泌 ・ 代 謝 機 能	インスリン負荷試験
	グルカゴン負荷試験
	ブドウ糖負荷試験
	絶食試験
	TRH試験
	CRH試験
	GHRH試験
	LHRH試験
	デキサメサゾン抑制試験
	水制限試験
	高張食塩水負荷試験
	ACTH試験
	フロセミド負荷試験
	PTH負荷試験 (Ellsworth-Howard試験)
	progesterone負荷試験
	エストロゲン・progesterone負荷試験
	Gonadotropin負荷試験
腎 機 能	クレアチニンクリアランス
	濃縮試験〈Fishberg試験〉
	糸球体濾過値〈GFR〉
	レノグラム

分類	項目
神運動・機能	脳波
	筋電図

## 8 栄養学検査

分類	項目
身計体測	身長
	体重
	Body Mass Index 〈BMI〉
血液検査 生化学	総蛋白 〈TP〉 *
	アルブミン 〈Alb〉 *
栄養的評価表	SGA
	MNA®

## 9 内視鏡検査

分類	項目
	{鼻咽腔内視鏡検査、顎関節内視鏡検査などと表記}

## 10 画像検査

分類	項目
エックス線撮影	口内法
	二等分法
	平行法
	偏心投影法
	咬翼法
	咬合法
	Waters法
	頭部後前方向エックス線撮影
	頭部側方向エックス線撮影
	顎関節エックス線撮影
	胸部エックス線撮影
パノラマエックス線撮影	
造影線	唾液腺造影
	血管造影
CT	単純CT
	造影CT
歯科用コーンビームCT	

分類	項目
画像 磁気共鳴	単純MRI
	造影MRI
	磁気共鳴血管撮影 〈MRA〉
超音波検査	頸部超音波検査
	カラードプラ法
シンチグラフィ	骨シンチグラフィ
	唾液腺シンチグラフィ
	シングルフォトンエミッション断層撮影 〈SPECT〉
	ポジトロンエミッション断層撮影 〈PET〉

## 11 口腔検査

分類	項目
歯・歯髄・根管の検査	視診
	透照診
	触診
	打診
	温度診
	化学診
	麻酔診
	切削診
	歯髄電気診 〈電気歯髄診断〉
	楔応力検査
	インピーダンス測定検査
	動揺度検査
	歯周ポケット検査
	塗抹検査
	細菌培養検査
	レーザー蛍光強度測定
	根管長測定
	DMF
	CFI
口腔態の検査	OHI
	OHI-S
	PII
	O' LearyのPCR
	PHP

分類	項目
歯周組織の検査	GI
	BI
	SBI
	PMA Index
	GBI
	PDI
	RussellのPI
	CPI
	PPD
	CAL
	BOP
	歯周病リスク検査
顎間関係の検査	安静空隙利用法〈下顎安静位利用法〉
	嚥下運動利用法
	発音利用法
	最大咬合力利用法
	習慣性閉口路利用法
	ゴシックアーチ描記法
唾液の検査 ・検査 唾液	唾液分泌能検査 {ガム試験、Saxon テストなどと表記}
	唾液成分検査
	唾液腺シンチグラフィ
口検査 臭の	官能検査
	ガスクロマトグラフィー検査
	ガスセンサー検査

分類	項目
言語機能検査	呼吸持続時間の測定
	発声持続時間の測定
	発語明瞭度検査
	単音節復唱検査
	パラトグラム検査
鼻機能検査 閉鎖	ブローイング検査
	発声言語の聴覚判定
	鼻漏出検査
味覚検査	電気味覚検査
	濾紙ディスク法
	点滴法 {滴下法、全口腔法などと表記}
皮膚知覚検査	痛覚検査
	触覚検査
	温度覚検査
	二点識別検査

## 12 口腔機能検査

分類	項目
咀嚼機能検査	咀嚼能力検査
	咬合力検査〈咬合圧検査〉
	咬合音検査
	筋電図検査
下顎運動検査	下顎運動路検査
	開口量・限界運動範囲の検査
嚥下機能検査	嚥下造影検査〈VF検査〉
	嚥下内視鏡検査〈VE検査〉
	改訂水飲み検査〈MWST〉
	反復唾液嚥下テスト〈RSST〉
	頸部聴診法
	フードテスト

# 必修の基本的事項

大 項 目	中 項 目	小 項 目
1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナルリズム 約2%	ア 医の倫理、生命倫理	a 患者の人権と医療
		b ニュルンベルグ綱領、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言、ヒポクラテスの誓い
		c 守秘義務、プライバシーの尊重、法の遵守
	イ 歯科医師と患者・家族との関係	a 患者中心の歯科医療、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン
		b 患者の権利と義務
		c 自己決定権
2 社会と歯科医療 約2%	ア 患者・障害者のもつ心理・社会的問題	a 疾病・障害の概念・構造(社会的関わり)
		b QOL<生活の質、quality of life>
		c リハビリテーションの理念
		d ノーマライゼーション、バリアフリー
		e 患者・障害者の心理と態度
		f 国際生活機能分類<ICF>、国際障害分類<ICIDH>
		g ニーズとダイヤモンド
	イ 歯科医療の社会的背景	a 健康意識、疾病構造
		b 国民医療費
	ウ 保健・医療・福祉・介護の制度	a 歯科医師法
		b 歯科衛生士法
		c 歯科技工士法
		d 薬事法
		e 医療法
		f 保健・医療・福祉・介護の各制度と職種
		g 地域歯科保健活動での各職種の連携に関する制度
	エ 臨床試験・治験と倫理	a GCP<医薬品の臨床試験の実施の基準>
		b 臨床研究、疫学研究の倫理指針
3 予防と健康管理・増進 約5%	ア 健康増進と疾病予防	a 概念
		b プライマリーヘルスケア、アルマ・アタ宣言
		c ヘルスプロモーション、オタワ憲章
		d 健康日本21
		e メタボリックシンドローム
		f 行動レベル、行動変容
	イ 地域保健	a 地域保健法、地域保健体制
		b 健康増進法
		c 歯科口腔保健の推進に関する法律
		d 8020運動
		e 健康危機管理
	ウ 母子保健	a 歯科健康診査(妊産婦、1歳6か月児、3歳児)
		b 妊産婦・乳幼児の保健指導
	エ 学校保健	a 保健教育・保健管理の概要
	オ 産業保健	a 労働者の健康管理、トータルヘルスプロモーションプラン<THP>
	カ 成人・高齢者保健	a 特定健康診査、特定保健指導
		b 健康増進事業、歯周疾患検診
		c 介護予防(地域支援事業、予防給付)

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	キ フッ化物応用	d 福祉、介護保険
		a 全身的应用
		b 局所的应用
		c 安全性
	ク 保健指導	a 栄養と食生活
		b 喫煙、飲酒
		c ストレス、運動
		d 生活習慣病
	ケ 口腔清掃	a 機械的・化学的プラーク〈口腔バイオフィルム〉コントロール
		b プラーク形成機序・付着抑制
		c 口腔清掃行動
	コ 口腔のケア	a 口腔衛生管理のための口腔のケア
		b 口腔機能維持向上のための口腔のケア
4 歯科医療の質と安全の確保 約7%	ア 医療の質の確保	a 患者満足度
		b 患者説明文書
		c 診療録開示
		d クリニカルパス
	イ 医療事故の防止	a 医療事故と医療過誤
		b 医療事故の発生要因
		c 患者の安全管理(誤飲、誤嚥、誤薬、出血、外傷、感染、被曝、目の保護)
		d 医療者の安全管理(感染、針刺し事故、外傷、被曝、目の保護)
		e 医療危機管理<リスクマネジメント>
		f ヒヤリハット、アクシデント、インシデント、医療事故報告書、インシデントレポート
		g 医療安全対策(医薬品・医療機器の安全管理)
	ウ 院内感染対策	a スタンダードプレコーション<標準予防策>
		b 抗菌薬の適正使用と薬剤耐性菌
		c 医療廃棄物処理
		d 院内感染対策委員会
	エ 医療裁判	a 医事紛争、賠償
		b 医療訴訟(刑事裁判、民事裁判)
	オ 医薬品・医療機器による健康被害	a 副作用・有害事象への対応(報告義務、治療、補償)
	カ 血液・血液製剤の安全性	a 保管、管理
5 診療記録と診療情報 約2%	ア 診療録、医療記録	a 診療に関する記録(診療録、同意書、処方箋、検査所見記録、画像記録、手術記録、入院診療計画書、退院時要約、技工指示書、模型)
		b 診療録の管理・保存
		c SOAP(主観的情報、客観的情報、評価、計画)
	イ 診療情報	a 個人情報の保護
		b 診療情報の開示
	ウ 診断書	a 診断書、死亡診断書



大 項 目	中 項 目	小 項 目
6 人体の正常構造・機能 約14%	ア 全身の構造・機能	a 遺伝子、染色体
		b 細胞・細胞内小器官の構造・機能
		c 組織(上皮組織、支持組織(血液を含む)、筋組織、神経組織)
		d 生体構成成分の構造・機能
		e 器官系(骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、循環器系<脈管系>、泌尿器系、生殖器系、神経系、感覚器系、内分泌系)
		f 免疫(自然免疫、獲得免疫)
	イ 口腔・顎顔面の構造・機能	a 口腔の構造(口腔前庭、固有口腔、口蓋、舌、口{腔}底、唾液腺、頬、口唇、口峽、歯列)
		b 口腔の機能(咬合、咀嚼、嚥下、呼吸、発声と構音、消化、皮膚・粘膜の体性感覚、味覚)
		c 唾液の種類
		d 頭部の筋(表情筋・咀嚼筋の種類)
		e 頭蓋を構成する骨(神経頭蓋、内臓頭蓋)
		f 頭頸部の神経(三叉神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経)
		g 頭頸部の動脈(総頸動脈、外頸動脈、内頸動脈、舌動脈、顔面動脈、顎動脈)
		h 顎関節の構造(下顎頭、下顎窩、関節円板、関節包、関節結節、靱帯)
	ウ 歯・歯周組織の構造・組成・機能	a 歯の形態(歯種の鑑別)
		b 歯式
		c 歯の構造・組成
		d 歯周組織の構造・組成(根尖歯周組織、辺縁歯周組織)
		e 歯髄の感覚
		f 歯根膜の感覚
		g 歯・歯周組織が受ける力
	エ 口腔の生態系	a 常在微生物叢
		b 食品の影響
		c 唾液の作用
		d プラーク<口腔バイオフィルム>
7 人体の発生・成長・発達・加齢 約7%	ア 人体の成長発育	a 発育区分(出生前期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期)
		b 発育期の特徴
		c 成長発育・発達の特徴(身体成長、原始反射、運動の発達、社会性の発達、言語の発達、情動の発達)
		d 小児の生理的特徴
		e 身体成長と精神発達の評価法(Kaup指数、Rohrer指数、BMI、暦年齢、生理的年齢、発達スクリーニング検査)
	イ 歯・口腔・顎・顔面の発生・成長発育	a 歯・歯列の成長発育(歯の発生、発育時期、萌出時期・順序、歯の脱落・交換時期、歯齢)
		b 上顎骨・下顎骨の成長発育の特徴
	ウ 加齢による歯・口腔・顎・顔面の変化	a 歯の変化
		b 歯周組織の変化

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		c 顎骨・顎堤の変化
		d 顔面の変化
		e 歯列・咬合の変化
		f 顎関節の変化
		g 筋の変化
		h 神経系の変化
		i 口腔粘膜の変化
		j 唾液腺の変化
	エ 歯の喪失に伴う変化	a 形態的变化
		b 機能的変化
8 医療面接 約4%	ア 意義, 目的	a 医療情報の収集・提供
		b 患者歯科医師関係の確立
		c 患者の指導、動機付け、治療への参加
	イ 面接のマナー	a 身だしなみ
		b 挨拶、態度
		c 会話のマナー、言葉遣い
		d コミュニケーションの進め方(質問法、傾聴の仕方、非言語的コミュニケーション)
		e プライバシーの保護
		f 感情面への対応
	ウ 病歴聴取	a 主訴
		b 現病歴
		c 常用薬、アレルギー歴
		d 既往歴
		e 家族歴
		f 患者背景(生活習慣、喫煙歴、社会歴)
		g 患者・家族の考え方・希望
9 主要な症候 約10%	ア 全身の症候	a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、咳、喀痰、喘鳴、チアノーゼ、胸痛、呼吸困難、息切れ、動悸、頻脈、徐脈、不整脈、血圧上昇・低下、食思(欲)不振、悪心、嘔吐、下痢、貧血、睡眠障害、頭痛、頭重感、摂食・嚥下障害
	イ 歯・口腔・顎・顔面の症候のとらえ方	a 口腔・顎・顔面の一般的症候(疼痛、腫脹、腫瘍、色調の変化、熱感、出血、瘻、硬さの異常、触覚の異常、機能障害)
		b 歯の症候(齲蝕、硬組織欠損、変色、亀裂、破折)
		c 歯髄の症候(自発痛、誘発痛)
		d 根尖・辺縁歯周組織の症候
		e 歯列・咬合の症候
		f 口腔粘膜の症候
		g 顎骨の症候(形態の異常)
		h 顎関節の症候(関節痛、関節雑音、運動障害)
		i 筋の症候(圧痛、運動麻痺)
		j リンパ節の症候
		k 唾液腺の症候

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	ウ 全身的疾患による主な口腔症状	l 感覚異常(味覚、体性感覚)
		a 貧血による舌炎
		b 出血性素因による歯肉出血・抜歯後出血
		c 急性白血病による歯肉出血・腫脹
		d 後天性免疫不全症候群<AIDS>によるカンジダ症・歯周病
		e ウイルスによるアフタ性潰瘍
		f 結核・梅毒による粘膜潰瘍
		g 金属によるアレルギー性変化(苔癬様病変)
		h 糖尿病による口腔乾燥・歯周病の増悪
		i ビタミン欠乏による歯肉出血
		j 臓器移植に関連した口腔症状(免疫抑制、移植片対宿主病<GVHD>)
		k 脳血管疾患、神経筋疾患の摂食・嚥下障害
		l 他臓器癌の口腔症状
		m 認知症患者の口腔症状
	エ 薬物の有害事象による口腔症状	a 多形{滲出性}紅斑・歯肉肥厚<歯肉増殖>・歯の着色・唾液分泌量減少・唾液分泌量増加・味覚異常・顎骨壊死・抗腫瘍薬による口内炎、菌交代現象<菌交代症>
10 診察の基本 約4%	ア 診察のあり方	a 安全と感染への配慮
		b プライバシー・羞恥心・苦痛への配慮
		c 自己紹介、患者の確認
		d 患者への説明
		e 患者への声かけ・例示
	イ 基本手技	a 視診
		b 触診
		c 打診
		d 聴診
	ウ 診察時の体位	a 患者の体位
		b 術者の姿勢・位置
	エ 口腔診察用器材の準備と選択	
	オ 全身の診察	a 全身の外観(体型、栄養、姿勢、歩行、発声)
		b 意識状態、精神状態
		c バイタルサイン(呼吸、脈拍、血圧、体温)
	カ 口腔・顎・顔面の診察	a 顔貌の対称性、顔色、皮膚
		b 口腔粘膜
		c 所属リンパ節
		d 唾液腺
		e 下顎運動
	キ 歯列・咬合状態の診察	a 歯列弓の形態・大きさ
		b 前歯部の被蓋
		c 臼歯部の咬合状態
	ク 歯・歯周組織の診察	a 歯の所見
		b 歯髓の症状
		c 根尖・辺縁歯周組織の症状

大 項 目	中 項 目	小 項 目
11 検査の基本 約10%	ケ 心理・社会的側面についての配慮	a 患者の心理・社会的側面・性格の把握 b 家族背景
	ア 意義、目標	a 診断 b 治療経過の評価 c 医療情報の収集
	イ 検査の安全	a 患者・検体の確認 b 実施(必要性)の説明 c 検査の合併症
	ウ 検体検査の種類	a 一般臨床検査(尿、穿刺液、関節液) b 血球検査、凝固・線溶、血液型・輸血関連検査、赤沈 c 生化学検査(糖質、糖、代謝関連物質、蛋白、含窒素成分、脂質代謝関連物質、電解質、酸塩基平衡、酵素、ホルモン) d 免疫血清学検査(抗体、補体、炎症反応、感染症の血清学的診断) e 微生物学検査
	エ 歯・歯周組織・口腔・顎・顔面の検査	a 歯の検査(硬組織、歯髄) b 根尖歯周組織の検査 c 辺縁歯周組織の検査 d 顎関節の検査 e 筋の検査 f 唾液腺の検査 g 味覚の検査
	オ 画像検査	a エックス線撮影(口内法、パノラマエックス線検査、CT、歯科用コーンビームCT、造影検査)
	カ 病理検査	a 細胞診 b 組織診
	キ 結果の解釈	a 病歴との関連(既往歴・投与薬物との関連) b 症候との関連
	12 臨床判断の基本 約2%	ア 根拠に基づいた医療<EBM>
		a 意義 b 齲蝕予防法の評価 c 歯周病予防法の評価
		イ 基準値
	ウ 有効性、効率性	a 基準範囲の概念 b 生理的変動 c 性差、年齢差
		a 効率とリスク b 費用対効果
13 初期救急 約1%	ア 救急患者の診察	a 全身的偶発症の原因推定 b バイタルサインの把握 c 意識障害の評価 d 病態・疾患の鑑別 e 重要臓器の機能状態の把握
		イ 救急処置
		a 一次救命処置<BLS>、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、除細動、静脈確保、酸素療法、基本的救急薬品、止血法、輸液療法、輸血

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		b 救急処置を要する症状(失神、ショック、けいれん、呼吸困難、胸痛、嘔吐、皮膚症状、誤飲と誤嚥)
14 主要な疾患と障害 の病因・病態 約12%	ア 疾病の概念	a 健康・疾病の概念
		b 先天異常、発育異常
		c 損傷
		d 炎症
		e 感染症
		f 嚢胞
		g 腫瘍
		h 循環障害
		i 代謝障害、萎縮、壊死、壊疽
		j 病的増殖
		k 精神・神経疾患
		l 放射線の影響
	イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患と障害の概念	a 歯の硬組織疾患
		b 歯髄疾患
		c 根尖性歯周組織疾患
		d 歯周病
		e 不正咬合
		f 咬合・咀嚼障害
		g 免疫異常
		h 先天異常、発育異常
		i 損傷
		j 炎症性疾患
		k 嚢胞
		l 腫瘍、腫瘍類似疾患
		m 顎関節疾患
		n 口腔粘膜疾患
		o 唾液腺疾患
		p 口腔に症状を現す血液疾患・出血性素因
		q 薬物・放射線による有害事象
		r 神経疾患、心因性病態
		s 摂食・嚥下障害
15 治療の基礎・基本 手技 約12%	ア 意義, 目標	a 疾患の治療、自然治癒
	イ 種類, 特性	a 原因療法、対症療法
		b 保存療法、根治療法
	ウ 治療の適応・選択	a 適応
		b 禁忌
	エ 治療の場	a 外来
		b 入院
		c 施設
		d 居宅
		e 地域
		f 隔離
	オ 使用器材、取扱法	a 基本的器材

大 項 目	中 項 目	小 項 目
	カ 乳幼児・高齢者・妊産婦・障害者・要介護者の治療	a 治療環境
		b 患者の体位
		c コミュニケーション
		d チーム医療
	キ 器械の安全な取扱法	a 歯科用ユニット
		b エックス線撮影装置
	ク 消毒・滅菌と感染対策	a 消毒・滅菌法
		b 手術野の防湿・消毒、清潔操作
		c 手術室
	ケ 注射法の種類	a 皮内
		b 皮下
		c 筋肉
		d 静脈
	コ 麻酔法	a 局所麻酔(局所麻酔法、局所麻酔薬、血管収縮薬、合併症、偶発症)
		b 全身麻酔(吸入麻酔法、静脈麻酔法)
		c 精神鎮静法(吸入鎮静法、静脈内鎮静法)
	サ 創傷の処置	a 洗浄、消毒
		b 止血
		c 縫合
	シ 膿瘍の処置	a 穿刺、切開、ドレナージ
	ス 抜歯	a 基本的術式
	セ 歯の切削	a 基本的術式
	ソ 歯の硬組織疾患の治療	a 基本的術式
	タ 歯髄疾患の治療	a 基本的術式
	チ 感染根管の治療	a 基本的術式
	ツ 根尖性歯周組織疾患の治療	a 基本的術式
	テ 歯周病の治療	a 基本的術式
	ト 歯質・歯の欠損による障害の治療	a 基本的術式
	ナ 不正咬合の治療	a 基本的術式
	ニ 印象採得	a 基本的術式
	ヌ 顎間関係の記録	a 基本的術式
	ネ 咬合器	a 種類
		b 基本的使用法
	ノ 歯科鑄造	a 鑄造法の基本的術式
	ハ 合着・接着法	a 基本的術式
	ヒ 薬物療法	a 薬物作用の種類(局所作用、全身作用、直接作用、間接作用)
		b 薬物の適用方法
		c 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)
		d 薬物の効果に影響する因子(年齢、個体差、種差、性差、プラセボ効果)
		e 薬物の作用部位

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		f 薬物の反復投与
		g 用量と薬理作用 (LD <sub>50</sub> 、ED <sub>50</sub> 、治療係数<安全域>、TDM<therapeutic drug monitoring><薬物の血中濃度モニタリング>)
		h 薬物の併用(協力作用、拮抗作用)
		i 薬物の副作用・有害作用(薬物アレルギー(アナフィラキシーショック)、皮膚障害、血液障害、消化器障害、肝障害、腎障害、呼吸器障害、中枢神経障害)
		j 薬物投与上の注意(禁忌、小児、妊婦、高齢者、全身疾患を有する患者)
		k 薬物の保管・管理
	フ 栄養療法	a 経口栄養、経静脈栄養、経管栄養(経腸栄養、胃瘻<PEG>)
	ヘ 口腔機能のリハビリテーション	a 機能の回復(咀嚼機能、摂食・嚥下機能、構音機能)
		b 口腔機能管理
		c コミュニケーションと社会参加
	ホ 患者管理の基本	a 口腔環境の評価(口腔清掃状態、補綴装置の清掃状態、残存歯の状態、口腔粘膜の状態、咬合状態、補綴装置の適合状態、顎堤の状態、唾液、味覚)
		b 全身管理に留意すべき疾患・対象(気管支炎、気管支喘息、肺炎、慢性閉塞性肺疾患<COPD>、心筋梗塞、狭心症、高血圧症、心不全、心内膜炎、脳内出血、脳梗塞、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、急性・慢性肝炎、肝硬変、胃食道逆流症<GERD>、腎炎、慢性・急性腎不全、貧血、急性白血病、出血性素因、血友病、von Willebrand病、糖尿病、骨粗鬆症、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、副腎機能亢進症、副腎機能低下症、膠原病、後天性免疫不全症候群<AIDS>、認知症、統合失調症、うつ病、双極性障害、てんかん、Alzheimer病、Parkinson病、アルコール・薬物依存症、悪性腫瘍、周術期、妊婦、小児、高齢者、免疫不全、臓器移植患者、菌交代現象<菌交代症>)
		c 日常生活動作<ADL>の評価
	マ 歯科材料	a 基本的性質
		b 印象材
		c 模型材
		d 修復用材料
		e 合着・接着材
		f 義歯用材料
		g 予防填塞材
		h 歯内療法用材料
		i 切削・研削・研磨用材料
16 チーム歯科医療 約2%	ア 医療機関でのチームワーク	a 歯科医師・医師間
		b 歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士間
		c 多職種連携
	イ 地域医療でのチームワーク	a 病診連携
		b 診診連携

大 項 目	中 項 目	小 項 目
		c 保健・医療・福祉・介護・教育の連携
		d 家族との連携
		e 地域連携クリニカルパス
	ウ チームワーク形成	a リーダーシップ
		b チームの調整技能
	エ コンサルテーション	a 自己責任と自分の限界
	オ 社会生活	a 社会復帰
		b 社会保障制度(所得、介護、障害)
		c 人的支援
		d 物的支援(福祉用具)
		e 社会的支援
		f 自立
17 一般教養の事項 約4%	ア 医学史、歯科医学史	
	イ 医学・医療に関する 人文、社会科学、自 然科学、芸術などに 関連する一般教養的 知識や考え方	
	ウ 歯科医療に必要な基 本的医学英語	





# 歯科医学総論

# 総論 I 保健医療論〔約 12%〕

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
1 健康・疾病・障害の概念	ア 健康の概念		
	イ 健康に関わる要因		
	ウ 社会環境の変化		
	エ 疾病の自然史と対応		
	オ 障害の概念と対応		
2 保健・医療・福祉・介護関係法規	ア 医事衛生法規		
	イ 保健衛生法規		
	ウ 医療保障・社会福祉・介護保険関連法規		
	エ 予防衛生法規		
	オ 薬事衛生法規		
3 保健・医療・福祉・介護の仕組みと資源	ア 衛生行政の組織		
	イ 医療機関		
	ウ 福祉施設		
	エ 介護施設		
	オ 医療関係職種		
	カ 福祉・介護の制度と職種		
	キ 医療連携、チーム医療		
	ク 保健・医療・福祉・介護の制度と連携		
4 地域保健、地域医療	ア 公衆衛生活動、地域保健活動		医療政策を含む
	イ 医療計画、健康増進計画		
	ウ ヘルスプロモーション		
	エ 地域保健活動の進め方		
	オ 都道府県、市町村、保健所の歯科保健業務		
	カ プライマリケア		
	キ かかりつけ歯科医機能		
	ク 救急・災害時等の歯科保健医療対策		大規模災害を含む
	ケ へき地医療		
	コ 在宅医療、在宅歯科医療		
5 歯科法医学	ア 死体解剖と死因究明制度		
	イ 死後変化		
	ウ 個人識別、身元確認		
6 社会保障と医療経済	ア 社会保障制度		
	イ 医療保険、介護保険		
	ウ 医療経済と国民医療費		
7 国際保健	ア 世界の保健・医療の問題と方向性		
	イ 国際保健・医療協力		

## 総論Ⅱ 健康管理・増進と予防〔約9%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 健康の保持・増進と予防	ア 健康教育・学習、保健指導、健康相談		
	イ 健康づくり(栄養、運動、休養)		
	ウ 禁煙指導・支援		
	エ 健康診断、スクリーニング検査		
	オ 口腔の環境・機能		
	カ 口腔の診察・検査		
	キ 歯への沈着物		
	ク 歯科口腔保健の推進に関する法律		
2 母子保健、母子歯科保健	ア 現状、動向		
	イ 母性保健		
	ウ 小児保健		
	エ 児童虐待		
	オ 母子歯科保健の意義		
	カ 妊産婦の歯科保健		
	キ 乳幼児の歯科保健		
	ク 乳幼児歯科健康診査		
3 学校保健、学校安全、学校歯科保健	ア 現状、動向		
	イ 学校保健の領域・内容		
	ウ 学校保健関係者		
	エ 学校歯科保健教育		
	オ 学校歯科保健管理		
	カ 組織活動		
	キ 学校安全		
4 産業保健、産業歯科保健	ア 現状、動向		
	イ 労働安全衛生管理		
	ウ 業務上疾病、作業関連疾患		
	エ 健康診断、事後措置		
	オ 産業歯科保健の意義		
	カ 産業歯科保健活動		
	キ 職業性歯科疾患		
5 成人保健、成人歯科保健	ア 現状、動向		
	イ 特定健康診査、特定保健指導		
	ウ 成人歯科保健		
	エ 成人の口腔保健管理		
6 高齢者保健	ア 現状、動向		
	イ 高齢者の特性		
	ウ QOL<quality of life>、日常生活動作<ADL>		
	エ 要介護高齢者の歯科保健・医療		
	オ 地域支援事業		
7 精神保健福祉	ア 現状、動向		
	イ 精神的健康の保持・増進		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	ウ 精神的健康の破綻と対応		
	エ 精神的健康と社会整備		
	オ 精神障害と歯科保健		
8 障害者保健福祉	ア 現状、動向		
	イ 障害者と社会		
	ウ 障害者の保健と医療・福祉		
	エ 障害者の歯科保健と医療・福祉		
9 人口統計と保健統計	ア 人口統計		
	イ 保健統計		
10 疫学とその応用	ア 疫学の概念		
	イ 疫学指標		
	ウ 統計解析		
	エ 因果関係の成立		
	オ 観察研究		
	カ 介入研究		
	キ 歯科集団検診		
	ク 歯科領域における統計指標		
	ケ 歯科領域における疫学調査		
	コ 齲蝕の疫学要因		
	サ 歯周病の疫学要因		
	シ 不正咬合の疫学要因		
	ス 口腔癌の疫学要因		
11 感染症対策	ア 感染症の疫学		
	イ 感染症対策		
	ウ 院内感染対策		
12 国民栄養と食品保健	ア 国民栄養の現状		
	イ 食事摂取基準		
	ウ 食生活指針		
	エ 食育基本法		
	オ 食の安全性と機能性		
	カ 食の機能と口腔保健		
13 環境保健	ア 環境と適応		
	イ 地球環境の変化・健康影響		
	ウ 環境汚染の発生要因・健康影響		
	エ 公害の健康影響と対策		
	オ 環境汚染の評価と対策		
	カ 廃棄物処理		
	キ 大気・水と健康		
	ク 放射線と健康		
	ケ 騒音・振動と健康		
	コ 住居と健康		

### 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能〔約5%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 細胞、組織	ア 生体を構成する基本物質		
	イ 細胞の構造・機能		
	ウ 細胞間情報伝達機構		
	エ 遺伝子、遺伝		
	オ 上皮組織		
	カ 支持組織		血液を含む
	キ 筋組織		
	ク 神経組織		
2 器官系	ア 骨格・筋系〈運動器系〉		
	イ 消化器系		
	ウ 呼吸器系		
	エ 循環器系〈脈管系〉		
	オ 泌尿器系		
	カ 生殖器系		
	キ 神経系〈中枢・末梢神経系〉		
	ク 感覚器系		
	ケ 内分泌系		血清カルシウム調節機構を含む
3 免疫	ア 免疫系臓器、免疫担当細胞		
	イ 免疫応答とその調節		
	ウ 自然免疫		
	エ 獲得免疫		

## 総論Ⅳ 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能〔約9%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 頭頸部の構造	ア 頭頸部の骨		副鼻腔を含む
	イ 頭頸部の筋		
	ウ 頭頸部の脈管		
	エ 頭頸部の神経		
	オ 頭頸部の内臓		咽頭、喉頭を含む
	カ 顔面		
2 口腔・顎・顔面の構造	ア 口腔前庭		
	イ 固有口腔		
	ウ 口蓋		
	エ 舌		
	オ 口{腔}底		
	カ 唾液腺		
	キ 頬		
	ケ 口唇		
	コ 口峽		
	サ 歯列		
	シ 顎関節		
3 口腔・顎・顔面・頭頸部の機能	ア 下顎位、下顎運動		
	イ 咬合接触、咬合様式		
	ウ 顎関節の機能		
	エ 吸啜		
	オ 咀嚼		
	カ 嚥下		
	キ 嘔吐		
	ケ 嗅覚		
	コ 発音、構音		
	サ 顎・口腔領域の反射		
	シ 味覚		
	ス 顔面皮膚の感覚		
	セ 粘膜の感覚		
	ソ 唾液分泌		
	タ 呼吸		
4 歯・歯周組織の構造と機能	ア 歯の形態		
	イ 歯式		
	ウ エナメル質		
	エ 象牙質・歯髄複合体		
	オ セメント質		
	カ 歯肉		
	キ 歯根膜<歯周靱帯>		
	ケ 歯槽骨		
	コ 歯・歯列の機能		
5 口腔の生態系	ア 唾液		
	イ 常在微生物叢		
	ウ プラーク<口腔バイオフィルム>		

## 総論Ⅴ 発生、成長、発達、加齢〔約3%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 人体の発生・成長・発達・加齢	ア 生殖、初期発生		
	イ 胎芽期		
	ウ 胎児期		
	エ 新生児期、乳児期		
	オ 幼児期、学童期		
	カ 思春期		
	キ 成長・発達の評価		
	ク 加齢、老化		
	ケ 骨格・筋系〈運動器系〉		
2 機能の発達	ア 運動・感覚機能		
	イ 認知機能		
	ウ 言語機能		
	エ 情緒・社会性		
3 歯・口腔・顎・顔面の発生	ア 顔面		
	イ 顎、口蓋		
	ウ 舌		
	エ 唾液腺		
	オ 顎関節		
	カ 歯の形成・萌出		
	キ 歯周組織の形成		
	ク 軟骨内骨化、膜内骨化		
	ケ 骨の形成・吸収・改造〈リモデリング〉		
	コ 石灰化機構		
4 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の成長発育	ア 脳頭蓋の成長発育		
	イ 顔面頭蓋の成長発育		
	ウ 歯列・咬合の成長発育		
5 口腔・顎の機能の発達	ア 咀嚼		
	イ 嚥下		
	ウ 唾液分泌		
	エ 味覚		
6 加齢・老化による歯・口腔・顎・顔面の変化	ア 形態的变化		
	イ 機能的変化		



## 総論VI 病因、病態〔約9%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 病因論	ア 染色体・遺伝子・発生の異常		
	イ 環境と疾患		
2 細胞組織の傷害	ア 代謝障害(変性)		
	イ 萎縮		
	ウ 細胞死		
3 修復と再生	ア 口腔の診察・検査		
	イ 肥大、過形成(増生)		
	ウ 化生		
	エ 再生		
	オ 創傷治癒		
	カ 異物処理		
4 循環障害	ア 全身の循環障害		
	イ 局所の血液分布異常		
	ウ 閉塞性の循環障害		
5 炎症	ア 炎症の概念		
	イ 炎症の原因		
	ウ 炎症に関与する細胞		
	エ 炎症の機序・病態		
	オ 急性炎症、慢性炎症		
	カ 肉芽腫性炎の種類・特徴		
6 感染症、アレルギー、免疫疾患	ア 感染の概念		
	イ 病原微生物		
	ウ 宿主側の因子		
	エ 感染症		
	オ 免疫不全		
	カ 自己免疫疾患		
	キ アレルギー反応(過敏症)		
7 腫瘍	ア 腫瘍の概念		
	イ 腫瘍発生の病因		
	ウ 腫瘍の疫学		
	エ 腫瘍の発育様式		
	オ 腫瘍の組織学的構造		
	カ 構造異型、細胞異型		
	キ 良性腫瘍、悪性腫瘍		
	ク 前癌状態、前癌病変		
	ケ 腫瘍と宿主の関係		
8 疼痛	ア 侵害受容性疼痛		
	イ 神経障害性疼痛		
	ウ 心因性疼痛		
	エ 口腔・顔面領域の疼痛		
9 中毒、放射線障害	ア 中毒の発生要因・病態生理		
	イ 放射線の身体的影響		
	ウ 放射線の遺伝的影響		
	エ 放射線の確率的・確定的影響		
10 医原病	ア 検査・診断に伴う医原病		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	イ 治療に伴う医原病		
11 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋疾患の病因・病態	ア 先天異常・後天異常		
	イ 歯の硬組織・歯髄・根尖歯周組織・辺縁歯周組織の疾患		
	ウ 口腔粘膜の疾患		
	エ 唾液腺の疾患		
	オ 顎・顎関節の疾患		
	カ 嚢胞		
	キ 腫瘍		
	ク 損傷		
	ケ 口腔・顎顔面領域に症状を伴う全身疾患		
	コ 口腔疾患の治療に伴う変化		
	サ リスクファクター		
12 歯の喪失に伴う口腔・顎・顔面の変化	ア 口腔の形態・機能の変化		
	イ 顎骨の形態変化		
	ウ 顔貌の変化		
	エ 顎関節の変化		
	オ 全身への影響		
13 個体の死	ア 死の概念・判定		
	イ 生物学的な個体の死		

## 総論Ⅶ 主要症候〔約4％〕

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
1 全身的症候	ア 一般的症候		発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、咳、喀痰、喘鳴、チアノーゼ、胸痛、呼吸困難、息切れ、動悸、頻脈、徐脈、不整脈、血圧上昇・低下、食思(欲)不振、悪心、嘔吐、下痢、貧血、睡眠障害、頭痛、頭重感、摂食・嚥下障害
	イ 皮膚、外表		
	ウ 呼吸器、心臓、血管		
	エ 消化器		
	オ 血液、造血器、免疫		
	カ 口腔の診察・検査		
	キ 心理、精神機能		
	ク 神経(知覚障害と運動障害を含む)		
	ケ 内分泌、代謝、栄養		
2 歯・口腔・顎・顔面の症候	ア 歯、歯髄・根尖歯周組織		
	イ 辺縁歯周組織		
	ウ 歯列、咬合		
	エ 口腔粘膜		
	オ 顎骨		
	カ 顎関節		
	キ 顔面		
	ク 舌、軟組織、唾液腺、リンパ節		
	ケ 口腔機能障害	a 開口・閉口障害、咀嚼障害、摂食・嚥下障害、発音・構音障害、味覚障害、呼吸障害、感覚障害、口腔乾燥	

## 総論Ⅷ 診察〔約7%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 診察総論	ア 医療面接		
	イ 診察の基本		
	ウ 全身の診察		
	エ 救急時の診察		
	オ 根拠に基づいた医療<EBM>		
	カ 評価の基本		
2 小児への対応	ア 身体的特徴		
	イ 心理・社会的特徴		
	ウ 診察		
	エ 評価		
	オ 留意すべき疾患		発達障害(学習障害<LD>、注意欠陥多動性障害<ADHD>、自閉症スペクトラム障害<ASD>)の概念と対応
3 障害者への対応	ア 障害の概念		
	イ 障害の分類		
	ウ 診察		
	エ 評価		
	オ 介助、介護、患者管理		
4 妊婦・授乳婦への対応	ア 身体的特徴		
	イ 心理・社会的特徴		
	ウ 診察		
	エ 評価		
	オ 歯科治療上留意すべき事項		
5 高齢者への対応	ア 身体的特徴		
	イ 心理・社会的特徴		
	ウ 医療情報の収集		
	エ 診察		
	オ 評価		
	カ 要介護高齢者の歯科治療		
	キ 在宅歯科医療		
	ク 摂食・嚥下障害とリハビリテーション		
	ケ 多職種連携		
6 全身疾患を有する者への対応	ア 留意すべき疾患		悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、腎不全、肝疾患、糖尿病、高血圧性疾患、感染症など
	イ 身体的特徴		
	ウ 心理・社会的特徴		
	エ 医療情報の収集		
	オ 診察		
	カ 評価		
	キ 医療連携、チーム医療		

# 総論Ⅸ 検査〔約 16%〕

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
1 口腔内検査・口腔機能検査	ア 歯の硬組織の検査		
	イ 歯髄検査		
	ウ 根尖歯周組織検査		
	エ 辺縁歯周組織検査		
	オ 舌・口腔粘膜検査		
	カ 歯列・咬合検査		
	キ 唾液・唾液腺検査		
	ク 口腔清掃状態検査		
	ケ 下顎位検査		
	コ 下顎運動検査		
	サ 顎関節・筋機能検査		
	シ 舌運動・舌圧検査		
	ス 咀嚼機能検査		
	セ 咬合力検査		
	ソ 嚥下機能検査		
	タ 構音機能検査		
	チ 鼻咽腔閉鎖機能検査		
	ツ 味覚検査		
	テ 口臭検査		
2 画像検査	ア 電離放射線		
	イ 放射線の単位・測定		
	ウ 放射性同位元素		
	エ エックス線撮影装置・器材		
	オ エックス線画像の形成		
	カ デジタル画像システム		
	キ 放射線の防護・管理		
	ク 検査における医療情報		検査情報検索システム、診療支援システム、画像情報システム、画像診断支援システム〈CAD〉
	ケ 口内法エックス線検査		
	コ パノラマエックス線検査		
	サ 顎顔面頭蓋部エックス線検査		
	シ CT		
	ス 歯科用コーンビームCT		
	セ MRI		
	ソ シンチグラフィ		SPECT、PETを含む
	タ 超音波検査		
	チ 造影検査		
	ツ 内視鏡検査		
3 検体検査	ア 検体の採取・保存		
	イ 一般臨床検査		
	ウ 血液学検査		
	エ 生化学検査		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	オ 免疫学検査		
	カ 微生物学検査		
	キ 病理組織学検査、細胞診		
	ク 染色体・遺伝子検査		
4 生体機能検査	ア 呼吸機能検査		パルスオキシメトリ
	イ 心機能検査		
	ウ 消化管機能検査		
	エ 肝・胆道機能検査		ICG試験
	オ 膵機能検査		
	カ 内分泌・代謝機能検査		
	キ 基礎代謝検査		
	ク 腎機能検査		
	ケ 脳波検査		
	コ 筋電図・神経伝導検査		徒手筋力テスト
5 その他の検査	ア 皮膚検査		プリックテスト、皮内テスト、針反応テスト、パッチテスト
	イ 皮膚知覚検査		

## 総論 X 治療〔約 13%〕

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
1 治療計画	ア 治療計画の立案		
	イ 治療計画を左右する因子		
	ウ 治療計画の提示		
	エ 治療の評価		
2 治療の基礎	ア 主訴の改善		
	イ キュアとケア		
	ウ 原因療法		
	エ 対症療法		
	オ 保存療法と外科療法		
	カ 緩和療法		
	キ 再生療法		
	ク 再建療法		
	ケ 小児の治療		
	コ 障害者の治療		
	サ 成人の治療		
	シ 高齢者の治療		
3 救急医療	ア 乳児に対する一次救命処置		
	イ 小児に対する一次救命処置		
	ウ 成人に対する一次救命処置		
	エ 高度な気道管理		
	オ 成人・小児に対する二次救命処置		
	カ 窒息・誤飲・誤嚥に対する対応		
4 手術・周術期の管理	ア 手術の適応		
	イ 口腔環境の評価		
	ウ 全身状態の評価		
	エ 全身的偶発症		
	オ 術前管理		
	カ 術中管理		
	キ 術後管理		疼痛の管理、感染予防、栄養管理
	ク 外科的侵襲に対する反応		
5 手術基本手技	ア 消毒と滅菌		
	イ 切開法		
	ウ 止血法		
	エ 縫合法		
	オ 穿刺、切開排膿、ドレナージ		
	カ 拔牙		
	キ 口腔の小手術		
	ク 移植、再植		
	ケ 創傷の治療		
6 麻酔、緩和医療	ア 局所麻酔法		
	イ 局所麻酔薬、血管収縮薬		
	ウ 全身麻酔法		日帰り全身麻酔を含む
	エ 吸入麻酔薬、静脈麻酔薬		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	オ 筋弛緩薬とその拮抗薬		
	カ 麻酔補助薬		
	キ 術前管理と麻酔前投薬		
	ク 術中・術後管理とモニタリング		
	ケ 吸入鎮静法、静脈内鎮静法		
	コ 合併症、偶発症		
	サ 疼痛とQOL<quality of life>		
	シ 緩和ケア		癌性疼痛治療法、ペインコントロール
7 リハビリテーション	ア リハビリテーションの概念		
	イ 摂食・嚥下障害のリハビリテーション		咀嚼障害、摂食・嚥下障害
	ウ 発音障害・構音障害のリハビリテーション		構音機能障害
	エ 口腔機能管理		
	オ 栄養管理		経口栄養、経静脈栄養、経管栄養
	カ 栄養サポートチーム<NST>		
	キ 多職種連携		
8 放射線治療	ア 放射線治療の生物学的・物理学的基礎		
	イ 口腔領域の放射線治療		
	ウ 照射の有害反応		
	エ 放射線治療患者の口腔管理		
9 薬物療法	ア 薬物療法の種類		
	イ 適用方法と剤形		
	ウ 薬物動態		
	エ 薬効に影響を及ぼす因子		
	オ 薬物の作用部位・作用機序		
	カ 用量と反応		
	キ 薬物の連用		
	ク 服薬指導		
	ケ 薬物の副作用・有害作用・薬物相互作用		
	コ 薬物適用の注意		服薬計画
	サ 鎮痛薬		麻薬性・非麻薬性鎮痛薬
	シ 抗炎症薬		抗アレルギー薬、ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬
	ス 抗感染症薬		抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、消毒薬
	セ 抗腫瘍薬		



大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	ソ 代謝改善薬、ビタミン		硬組織代謝改善治療薬
	タ 止血薬、抗血栓薬		
	チ 齲蝕予防薬		
	ツ 薬物の保管・管理		麻薬・向精神薬
	テ 臨床試験		二重盲検法、無作為化、GCP<医薬品の臨床試験の実施の基準>、治験審査委員会<IRB>
10 その他の治療法	ア 理学療法		温熱、寒冷、水、光、電気、徒手、マッサージ、呼吸理学療法
	イ 超音波療法		
	ウ 運動療法		筋機能療法
	エ 凍結療法		
	オ レーザー療法		
	カ 免疫療法		
	キ 酸素療法		
	ク 高気圧酸素療法		
	ケ 心身医学療法		自律訓練法、行動療法、認知行動療法、カウンセリング
	コ IVR<Interventional Radiology>		
	サ 輸液療法		
	シ 輸血療法		
	ス 精神療法		

# 総論XI 歯科材料と歯科医療機器〔約13%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 生体材料の科学	ア 有機材料		
	イ セラミック材料		
	ウ 金属材料		
	エ 複合材料		
	オ 物理的性質		
	カ 機械的性質		
	キ 化学的性質		
	ク 生物学的性質と生体安全性		インプラントにおけるオッセオインテグレーションを含む
2 診療用器械	ア 歯科用ユニット		
	イ エアータービン		
	ウ マイクロモータ		
	エ レーザー装置		
3 切削、研削、研磨	ア 切削・研削工具		
	イ 研磨剤		
4 印象用材料	ア 酸化亜鉛ユージノール		
	イ モデリングコンパウンド		
	ウ 印象用石膏		
	エ 印象用ワックス		
	オ アルジネート		
	カ 寒天		
	キ シリコーンゴム		
	ク ポリエーテルゴム		
	ケ ポリサルファイドゴム		
	コ 機能印象材		
	サ 印象用トレー		
5 模型用材料	ア 歯科用石膏		
	イ レジン系模型材		
6 歯科用ワックス	ア インレーワックス		
	イ パラフィンワックス		
	ウ シートワックス、レディキャスト ィングワックス、スティッキー ワックス、ユーティリティーワ ックス		
7 予防填塞・成形修復・ 歯内療法用材料	ア コンポジットレジン		
	イ 歯質接着処理材、接着性モノマー		
	ウ グラスアイオノマーセメント		
	エ 歯科用アマルガム		
	オ 予防填塞材		
	カ 仮封材		
	キ 裏層材		
	ク 覆髄材		
	ケ 根管充填材		
8 歯冠修復用材料	ア レジン		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	イ 陶材		
	ウ 金属焼付陶材		
	エ アルミナ		
	オ ジルコニア		
	カ ガラスセラミックス		
	キ 金合金		
	ク 金銀パラジウム合金		
	ケ 銀合金		
	コ 陶材焼付用合金		
	サ チタン、チタン合金		
	シ 支台築造材		
	ス 暫間補綴・修復用材料		
9 義歯用材料	ア 基礎床材料		
	イ 加熱重合型アクリルレジン		
	ウ 常温重合型アクリルレジン		
	エ ポリスルフォン、ポリカーボネート		
	オ 人工歯		
	カ 義歯床用裏装材		軟質裏装材を含む
	キ 金合金		
	ク 金銀パラジウム合金		
	ケ コバルトクロム合金		
	コ チタン、チタン合金		
	サ ステンレス鋼		
	シ 歯科用磁性合金		
	ス ろう材		
10 レジンの成形技術・機器	ア 加熱重合		
	イ 常温重合(流し込み成形)		
	ウ 光重合		
	エ 加熱・加圧形成		
11 セラミックスの成形技術・機器	ア 陶材の築盛・焼成		
	イ 陶材と金属の接合		
	ウ セラミックスの成形加工		
	エ CAD/CAM		
12 金属の成形技術・機器	ア 鋳造工程		
	イ 石膏系鋳型材		
	ウ リン酸塩系鋳型材		
	エ 鋳造精度		
	オ 鋳造欠陥		
	カ ろう付け		
	キ 鋳接、溶接		
	ク 塑性加工と焼きなまし		
	ケ 軟化熱処理と硬化熱処理		
13 歯科接着技術・機器	ア エナメル質被着面処理		
	イ 象牙質被着面処理		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	ウ セラミックス被着面処理		
	エ 金属被着面処理		
14 合着・接着・仮着用材料	ア レジンセメント、接着性モノマー		
	イ グラスアイオノマーセメント		
	ウ ポリカルボキシレートセメント		
	エ リン酸亜鉛セメント		
	オ 酸化亜鉛ユージノールセメント		
	カ EBAセメント		
15 歯科矯正用材料	ア 線材料、ワイヤー		
	イ バンド、ブラケット		
	ウ 接着材		
	エ エラスティック		
	オ 床用レジン		
16 歯周治療・口腔外科・インプラント用材料	ア インプラント材料		インプラントの基本構造を含む
	イ 骨補填材		
	ウ 骨接合・顎骨再建プレート		
	エ 組織再生用材料		
	オ 縫合糸、包帯		



# 齒科醫學各論

# 各論Ⅰ 歯科疾患の予防・管理〔約6%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 齲蝕の予防・管理	ア 齲蝕の病因		
	イ 齲蝕リスク検査・評価		
	ウ 初期齲蝕の診断		
	エ ライフステージと齲蝕		第一次・第二次・第三次予防を含む
	オ 齲蝕の予防手段		
	カ 齲蝕の予防効果の評価		
	キ フッ化物の応用法		
	ク 根面齲蝕の予防		
2 歯周病の予防・管理	ア 歯周病の病因		
	イ 歯周病のリスクファクター・診断		
	ウ ライフステージと歯周病		第一次・第二次・第三次予防を含む
	エ 歯周病と生活習慣病のリスク		誤嚥性肺炎など関連するリスクを含む
	オ 歯周病の予防手段		
	カ 歯周病の予防効果の評価		
3 不正咬合の予防・管理	ア 不正咬合発生・進行の要因		
	イ 不正咬合発生の予防		
	ウ 不正咬合進行の抑制		
4 口臭の予防・管理	ア 口臭の原因		
	イ 口臭の診断		
	ウ 口臭の予防・治療		
5 その他の疾患の予防・管理	ア 歯の損耗<Tooth Wear>		咬耗症、摩耗症、酸蝕症、アブフラクション、くさび状欠損
	イ 歯・歯肉の着色・変色		
	ウ 歯・口腔の外傷		
	エ 唾液腺疾患、口腔乾燥症		
	オ 顎関節疾患		
	カ 味覚障害		
	キ 口腔粘膜疾患、口腔癌		
	ク スポーツによる歯・口腔の外傷予防		マウスガードを含む
6 保健指導	ア 口腔清掃の意義		
	イ 口腔清掃法		
	ウ 口腔清掃指導		
	エ 生活習慣指導		
	オ 禁煙指導・支援		
	カ ライフステージと口腔機能育成・増進指導		
7 食育と食の支援	ア 食生活と健康課題		
	イ 食事摂取基準と食事バランスガイド		
	ウ 間食指導		
	エ ライフステージと食の支援		

## 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態〔約19%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 歯・口腔・顎・顔面の発育を障害する先天異常	ア 口唇・口蓋裂		
	イ 顔面裂		
	ウ 鎖骨頭蓋骨異形成症<鎖骨頭蓋異骨症>		
	エ 骨形成不全症		
	オ Treacher Collins症候群<下顎顔面異骨症>		
	カ Crouzon症候群<頭蓋顔面異骨症>		
	キ Apert症候群<尖頭合指症>		
	ク 軟骨無形成症		
	ケ 第一第二鰓弓症候群		Goldenhar症候群を含む
	コ Marfan症候群		
	サ Russell-Silver症候群		
	シ Turner症候群		
	ス Beckwith-Wiedemann症候群<EMG症候群>		
	セ Robinシークエンス<Pierre Robin症候群>		
	ソ エナメル質形成不全{症}		Turnerの歯、エナメル質減形成症
	タ 象牙質形成不全症		
	チ 象牙質異形成症		
	ツ 先天性表皮水疱症		
	テ 先天性外胚葉形成不全<先天性外胚葉異形成症>		
	ト 先天性色素失調症		
	ナ 低フォスファターゼ症		
	ニ Papillon-Lefèvre症候群		
	ヌ 先天性好中球機能不全症		
	ネ Down症候群<21トリソミー症候群、21トリソミー>		
	ノ Klinefelter症候群		
	ハ 18トリソミー症候群<Edwards症候群>		
	ヒ 猫鳴き症候群<5p-症候群>		
	フ その他の先天異常・遺伝性疾患		
2 顎口腔領域の発育異常	ア 下顎頭欠損		
	イ 関節突起発育不全		
	ウ 下顎頭肥大		
	エ 顎関節疾患		
3 歯の異常	ア 過剰歯		正中歯
	イ 歯の先天欠如		部分性無歯症、全部性無歯症
	ウ 癒合歯、癒着歯、双生歯		



大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	エ 異常咬頭・結節		中心結節、第六咬頭、第七咬頭、切歯結節、カラベリー結節、プロトスタイリッド
	オ 歯内歯		
	カ 矮小歯		円錐歯
	キ 巨大歯		
	ク タウロドント		
	ケ 歯根の異常		
	コ 異所性エナメル質		エナメル滴、エナメル突起
	サ 歯のフッ素症		
	シ エナメル質形成不全{症}		Turnerの歯、エナメル質減形成症
4 歯・口腔・顎疾患	ア 歯牙腫		
	イ 歯の異所萌出		
	ウ 埋伏歯		
	エ 低位乳歯		
	オ 早期萌出乳歯		先天歯、新生児歯
	カ 歯の萌出遅延		
	キ 口唇炎		
	ク 口角びらん		
	ケ 口唇ヘルペス		
	コ 先天性下唇瘻・口角瘻		
	サ 萌出嚢胞		
	シ 上皮真珠		
	ス 舌の異常		巨舌症、小舌症、地図状舌
	セ Riga-Fede病		
	ソ Bednarアフタ		
	タ 疱疹性歯肉口内炎		
	チ 手足口病		
	ツ ヘルパンギーナ		
	テ Koplik斑		
	ト 上唇・舌小帯異常		
	ナ 粘液嚢胞		粘液瘤、ガマ腫、Blandin-Nuhn{腺}嚢胞嚢<前舌腺嚢胞>
5 歯の外傷	ア 歯の外傷の状況と影響		
	イ 診察と診断、治療方針		
	ウ 乳歯・幼若永久歯の外傷の処置と経過		
	エ 小児の歯の外傷の予防		
6 歯列・咬合異常の予防	ア 歯列・咬合異常の要因		
	イ 咬合誘導の考え方		
	ウ 保隙		

大項目	中項目	小項目	備考
	エ 動的咬合誘導		
	オ 口腔習癖とその対応		

●不正咬合

大項目	中項目	小項目	備考
7 不正咬合の病因・病態	ア 正常咬合の概念と成立の条件		
	イ 不正咬合の種類		
	ウ 不正咬合の分類		
	エ 不正咬合の原因		
	オ 不正咬合による障害		
8 不正咬合の診断	ア 診察		
	イ 検査		
	ウ 診断		抜歯・非抜歯の判定を含む
	エ 治療計画		
9 矯正力と固定	ア 狭義の矯正力		
	イ 顎整形力		
	ウ 生体反応		
	エ 固定		
10 矯正装置	ア 咬合斜面板		
	イ 咬合挙上板		
	ウ アクチバートル		
	エ バイオネーター		
	オ Fränkel装置		
	カ リップバンパー		
	キ ヘッドギア<上顎顎外固定装置>		
	ク チンキャップ<オトガイ帽装置>		
	ケ 上顎前方牽引装置		
	コ スライディングプレート		
	サ マルチブラケット装置		
	シ リンガルアーチ<舌側弧線装置>		
	ス 急速拡大装置		
	セ クワドヘリックス装置		
	ソ タングクリブ		
	タ Nanceのホールディングアーチ		
	チ トランスパラタルアーチ		
	ツ セクショナルアーチ		
	テ Hawleyタイプリテーナー		
	ト Beggタイプリテーナー<ラップアラウンドリテーナー、サーカムフェレンシアルタイプリテーナー>		
	ナ トゥースポジショナー		
	ニ 犬歯間保定装置		
11 不正咬合の治療	ア 乳歯列期・混合歯列期の不正咬合の治療		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	イ 永久歯列期の不正咬合の治療		
	ウ 先天性疾患を伴う不正咬合の治療		
	エ 顎変形症の治療		
	オ 補綴・歯周治療との併用		
	カ 治療中の管理		
	キ 保定		
	ク 偶発症		

## 各論Ⅲ 歯・歯髄・歯周組織の疾患〔約23%〕

### ●歯の硬組織疾患

大項目	中項目	小項目	備考
1 小児の歯の硬組織疾患	ア 乳歯齲蝕		
	イ 幼若永久歯齲蝕		
	ウ 齲蝕のリスクファクター		
	エ 非齲蝕性硬組織疾患		
2 成人の歯の硬組織疾患	ア 齲蝕		
	イ 齲蝕のリスクファクター		
	ウ 歯の損耗<Tooth Wear>		咬耗症、摩耗症、酸蝕症、アブフラクション、くさび状欠損
	エ 形成異常		
	オ 歯の変色・着色		
	カ 歯の亀裂・破折、脱臼		
3 歯の硬組織疾患の治療	ア 乳歯・幼若永久歯の歯冠修復法		
	イ 永久歯の直接修復法		
	ウ 永久歯の間接修復法		
	エ 窩洞形成法		
	オ 象牙質・歯髄保護法		
	カ 補修修復		
	キ 歯の漂白		
	ク 身体的・社会的・心理的要因と保存修復		

### ●歯髄・根尖性歯周組織疾患

大項目	中項目	小項目	備考
4 小児の歯髄・根尖性歯周組織疾患	ア 乳歯の歯髄疾患		
	イ 乳歯の根尖性歯周組織疾患		
	ウ 幼若永久歯の歯髄疾患		
	エ 幼若永久歯の根尖性歯周組織疾患		
5 成人の歯髄・根尖性歯周組織疾患	ア 象牙質知覚過敏症		
	イ 歯髄疾患		
	ウ 根尖性歯周組織疾患		
	エ 歯内-歯周疾患		
	オ 歯の外傷		
	カ 内部吸収、歯根外部吸収		
	キ 根尖性歯周組織疾患が全身に及ぼす影響		
6 歯髄・根尖性歯周組織疾患の治療	ア 象牙質知覚過敏症の治療		
	イ 歯髄保存療法		
	ウ 歯髄除去療法		
	エ 根尖性歯周組織疾患の治療		
	オ 根管処置、感染根管治療法		
	カ 根管充填		
	キ 根未完成歯の治療		
	ク 再根管治療		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	ケ 歯内-歯周疾患の治療		
	コ 外傷歯の治療		
	サ 内部吸収歯・歯根外部吸収歯の治療		
	シ 外科的歯内療法		
	ス 顕微鏡を用いた歯内療法		
	セ 歯髄・根管処置における偶発症と安全対策		
	ソ 根管処置後の歯冠修復		
	タ 全身疾患を有する者の歯内療法		

●歯周病

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
7 小児の歯周病	ア 歯周病の特徴		
	イ 歯周病への対応		
8 成人の歯周病	ア 歯肉病変		
	イ 歯肉病変の病原因子		
	ウ 歯周炎		
	エ 歯周炎のリスクファクター		
	オ 壊死性歯周疾患		
	カ 咬合性外傷		
	キ 歯周組織の膿瘍		
	ク 歯肉退縮		
	ケ 歯周-歯内病変		
	コ 歯周病と健康の関わり		
9 歯周病の治療	ア 急性症状を有する歯周病への対応		
	イ 歯周基本治療		
	ウ 咬合性外傷に対する治療		
	エ 歯周外科治療		組織付着療法、切除療法、歯周形成手術を含む
	オ 歯周組織再生治療		
	カ 根分岐部病変の治療		
	キ 口腔機能回復治療		
	ク 歯周病の抗菌療法		
	ケ メインテナンス、SPT<supportive periodontal therapy>		
	コ 全身疾患を有する者の歯周病治療		

## 各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患〔約 23%〕

### ●主として軟組織に関連する疾患の病態と治療

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
1 先天異常と変形を主徴とする疾患	ア 口唇・口蓋裂		
	イ 先天性鼻咽腔閉鎖不全		
	ウ 顔面裂		
	エ 口唇・頬部の異常		
	オ 舌・口底の異常		
	カ 歯肉・口蓋の異常		
	キ 小帯の異常		
	ク 先天異常と変形に対する治療		言語治療を含む
2 軟組織の損傷	ア 口腔軟組織の損傷		
	イ 顔面軟組織の損傷		
	ウ 損傷に対する治療		
3 軟組織の炎症	ア 歯冠周囲炎<智歯周囲炎>		
	イ 口腔軟組織の炎症		
	ウ 蜂窩織炎		
	エ 所属リンパ節の炎症		
	オ 歯性扁桃周囲炎		
	カ 歯性上顎洞炎		
	キ 歯性全身感染症		菌血症、敗血症、歯性病巣感染、全身性炎症(性)反応症候群<SIRS>
	ク 肉芽腫性炎		放線菌症、口腔結核、口腔梅毒
4 軟組織に発生する嚢胞	ケ 炎症に対する治療		
	ア 萌出嚢胞		
	イ 歯肉嚢胞		
	ウ 粘液嚢胞		
	エ 類皮嚢胞、類表皮嚢胞		
	オ 鼻歯槽嚢胞		
	カ 鰓嚢胞<側頸嚢胞、リンパ上皮性嚢胞>		
	キ 甲状腺管嚢胞		
5 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患	ク 嚢胞に対する治療		
	ア 歯原性良性腫瘍		
	イ 非歯原性良性腫瘍		
	ウ 口唇癌		
	エ 舌癌		
	オ 頬粘膜癌		
	カ 口蓋癌		
	キ 上顎・下顎歯肉癌		
	ク 口底癌		
	ケ 上顎洞癌		
	コ 軟組織の肉腫		
	サ 白血病		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	シ 悪性リンパ腫		
	ス 悪性黒色腫		
	セ 前癌病変、前癌状態		
	ソ 腫瘍類似疾患		エプーリス、義歯性線維腫、フェニトイン・シクロスポリン歯肉増殖症など
	タ 腫瘍・腫瘍類似疾患に対する治療	a 外科療法	再建術、頸部郭清術を含む
		b 化学療法	
		c 放射線療法	
		d 免疫療法	
	チ ガン治療患者の管理	a ガンの告知	
		b 治療時の患者管理	
		c 社会復帰	
		d 末期癌患者の管理	
		e 口腔衛生管理、口腔ケア	
		f 緩和医療	
6 口腔粘膜疾患	ア 単純疱疹<疱疹性口内炎>		
	イ 帯状疱疹		
	ウ ヘルパンギーナ		
	エ 手足口病		
	オ 天疱瘡		
	カ 類天疱瘡		
	キ 表皮水疱症		
	ク 多形{滲出性}紅斑		
	ケ 粘膜・皮膚・眼症候群<Stevens-Johnson症候群>		
	コ 中毒性表皮壊死剥離症<TEN>		
	サ 全身性エリテマトーデス<SLE>		
	シ 慢性再発性アフタ		
	ス Behçet病		
	セ 壊死性潰瘍性歯肉口内炎		
	ソ 壊疽性口内炎		
	タ 薬物性口内炎		
	チ 口腔扁平苔癬		
	ツ 口腔カンジダ症<鵝口瘡>		
	テ 白板症		
	ト 紅板症		
	ナ メラニン色素沈着症		
	ニ 外因性色素沈着		
	ヌ 色素性母斑		
	ネ Peutz-Jeghers症候群		

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	ノ Addison病		
	ハ von Recklinghausen病<神経線維腫症>		
	ヒ McCune-Albright症候群<多骨性線維性骨異形成症>		
	フ 口角びらん		
	ヘ 口腔乾燥症		
	ホ 鉄欠乏性貧血		
	マ Hunter舌炎		
	ミ 溝{状}舌		
	ム 黒毛舌		
	メ 化膿性舌炎		
	モ 地図状舌		
	ヤ 正中菱形舌炎		
	ユ 肉芽腫性口唇炎、 Melkersson-Rosenthal症候群		
	ヨ 接触性口唇炎		
	ラ 口角炎		
	リ 口腔粘膜疾患に対する治療		

●主として硬組織に関連する疾患の病態と治療

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
7 顎顔面の変形を来す疾患・病態	ア 顎変形症		
	イ 骨増生		
	ウ 下顎頭欠損		
	エ 顎顔面に異常を来す骨系統疾患・症候群		
	オ 顎顔面骨の変形に対する治療	a 顎矯正手術	
		b 補綴前外科手術	
		c 顎骨形成術	
		d 骨移植術<骨増量術>	
		e 骨延長術	
		f 上顎洞底挙上術	
		g 下顎頭形成術	
8 歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷	ア 歯の亀裂・破折・脱臼		
	イ 骨折の様態		
	ウ 歯槽骨骨折		
	エ 下顎骨骨折		
	オ 関節突起骨折		
	カ 上顎骨骨折		
	キ 頬骨・頬骨弓骨折		
	ク 鼻骨骨折		
	ケ 眼窩壁吹き抜け骨折		



大項目	中項目	小項目	備考
9 歯槽骨・顎骨の炎症	コ 口腔上顎洞瘻		
	サ 損傷に対する治療		
	ア 歯槽骨炎		
	イ 顎骨炎		
	ウ 顎骨骨膜炎		
	エ 顎骨周囲炎		
	オ 顎骨骨髓炎		
	カ 歯性上顎洞炎		
	キ 放射線性骨壊死		
	ク 薬剤関連顎骨疾患		薬剤関連顎骨壊死・ 壊疽・顎骨骨髓炎
	ケ 外歯瘻、内歯瘻		
	コ 顎骨周囲軟組織の炎症		
	サ 炎症に対する治療		
10 顎骨に発生する嚢胞性疾患	ア 歯根嚢胞		
	イ 歯周嚢胞		
	ウ 含歯性嚢胞〈濾胞性歯嚢胞〉		
	エ 原始性嚢胞		
	オ 腺性歯原性嚢胞		
	カ 鼻口蓋管嚢胞〈切歯管嚢胞〉		
	キ 術後性上顎嚢胞		
	ク 単純性骨嚢胞		
	ケ 脈瘤性骨嚢胞		
	コ 静止性骨空洞		
	サ 嚢胞に対する治療		
11 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患	ア 歯原性良性腫瘍		
	イ 歯原性悪性腫瘍		
	ウ 非歯原性良性腫瘍		
	エ 非歯原性悪性腫瘍		
	オ 骨関連病変		
	カ 骨増生〈骨隆起〉		
	キ 線維骨性病変		
	ク 巨細胞性病変		
	ケ Langerhans細胞性組織球症		
	コ 顎骨に発生する腫瘍・腫瘍類似疾患に対する治療	a 顎骨腫瘍の外科療法	
		b 顎骨の再建	
		c 顎顔面補綴	
		d 顎顔面インプラント治療	

●主として機能に関連する疾患の病態と治療

大項目	中項目	小項目	備考
12 唾液腺疾患	ア 発育異常		
	イ 異所性唾液腺		

大項目	中項目	小項目	備考
	ウ 唾液瘻		
	エ 口腔乾燥症		放射線障害を含む
	オ 流涎症		
	カ 唾液管炎		
	キ 唾液腺炎		
	ク ウイルス性唾液腺炎		
	ケ 免疫異常による唾液腺炎		
	コ Sjögren症候群		
	サ Frey症候群		
	シ 唾石症		
	ス 外来異物		
	セ 粘液嚢胞		粘液瘤、ガマ腫、Blandin-Nuhn{腺}嚢胞<前舌腺嚢胞>
	ソ リンパ上皮性嚢胞		
	タ 良性腫瘍		
	チ 悪性腫瘍		
	ツ 腫瘍類似疾患		
	テ 唾液腺疾患の治療		
13 神経疾患	ア 三叉神経痛		
	イ 舌咽神経痛		
	ウ 非定型顔面痛、非歯原性歯痛		
	エ 複合性局所疼痛症候群<complex regional pain syndrome>		
	オ 舌痛症		
	カ 癌性疼痛		
	キ 舌神経麻痺		
	ク 顔面神経麻痺		
	ケ 軟口蓋麻痺		
	コ Ramsay Hunt症候群<Hunt症候群>		
	サ 顔面けいれん		
	シ 三叉神経麻痺		
	ス 舌下神経麻痺		
	セ 神経疾患の治療		
14 顎関節疾患	ア 下顎頭欠損		
	イ 下顎頭肥大		
	ウ 関節突起発育不全		
	エ 関節突起骨折		
	オ 顎関節脱臼		
	カ 非感染性顎関節炎		外傷性{顎}関節炎を含む
	キ 感染性顎関節炎		
	ク リウマチ性顎関節炎		
	ケ 痛風性顎関節炎		
	コ 顎関節強直症		

大項目	中項目	小項目	備考
	サ 顎関節症		変形性〔顎〕関節症を含む
	シ 顎関節に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患		骨軟骨腫症、滑膜骨軟骨腫症を含む
	ス 顎関節疾患の治療		

●主として全身に関連する疾患の病態と治療

大項目	中項目	小項目	備考
15 口腔・顎顔面に異常を来す骨系統疾患・症候群	ア 鎖骨頭蓋骨異形成症〈鎖骨頭蓋異骨症〉		
	イ 大理石骨病		
	ウ McCune-Albright症候群〈多骨性線維性骨異形成症〉		
	エ 骨形成不全症		
	オ Treacher Collins症候群〈下顎顔面異骨症〉		
	カ Crouzon症候群〈頭蓋顔面異骨症〉		
	キ 第一第二鰓弓症候群		Goldenhar症候群を含む
	ク 口腔・顔面・指趾症候群〈OFD症候群〉		
	ケ Apert症候群〈尖頭合指症〉		
	コ Marfan症候群		
	サ 基底細胞母斑症候群		
	シ Peutz-Jeghers症候群		
	ス Gardner症候群		
	セ Robinシークエンス〈Pierre Robin症候群〉		
	ソ Papillon-Lefèvre症候群		
	タ von Recklinghausen病〈神経線維腫症〉		
	チ Sturge-Weber症候群		
	ツ Ramsay Hunt症候群〈Hunt症候群〉		
	テ Beckwith-Wiedemann症候群〈EMG症候群〉		
	ト Melkersson-Rosenthal症候群		
	ナ 18トリソミー症候群〈Edwards症候群〉		
	ニ Down症候群〈21トリソミー症候群、21トリソミー〉		
	ヌ その他の口腔・顎顔面に異常を来す症候群		
16 口腔症状を呈する疾患	ア ウイルス感染症		ヒト免疫不全ウイルス〈HIV〉感染症、ウイルス性肝炎、風疹、麻疹、水痘・带状疱疹

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
			疹、手足口病
	イ 細菌感染症		梅毒、破傷風、結核
	ウ 免疫異常	a アレルギー疾患	金属アレルギー、アレルギー性紫斑病、Quincke浮腫
		b 免疫不全	後天性免疫不全症候群<AIDS>
		c 自己免疫疾患	天疱瘡、類天疱瘡、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス<SLE>、円板状エリテマトーデス<DLE>、特発性血小板減少性紫斑病<ITP>、悪性貧血
		d 移植片対宿主病<GVHD>	
	エ 内分泌障害、代謝障害		下垂体性巨人症、下垂体性小人症、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、副甲状腺機能亢進症、Cushing病、アルドステロン症、Addison病、糖尿病、アミロイドーシス、鉄欠乏性貧血
	オ 栄養障害		くる病、悪性貧血、壊血病
	カ 血液疾患、出血性素因	a 赤血球系疾患	貧血、赤血球増多症
		b 白血球系疾患	白血病、無顆粒球症、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫
		c 出血性素因	Osler病、アレルギー性紫斑病、特発性血小板減少性紫斑病<ITP>、血小板無力症、血友病A・B、von Willebrand病、播種性血管内凝固症候群<DIC>
	キ 血液疾患・出血性素因に対する観血的治療		
	ク 口腔領域に関連して現れる心因性病態		気分(感情)障害、不安障害、解離性障害、身体表現性障害、心身症

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	ケ 薬物の副作用		薬疹、口腔乾燥症
	コ 口腔症状に対する治療		
17 全身管理に留意すべき 全身疾患・状態	ア 呼吸器疾患		
	イ 心臓・脈管疾患		
	ウ 消化器疾患		
	エ 泌尿器・生殖器疾患		
	オ 神経・運動器疾患		
	カ 精神・心身医学的疾患		
	キ 血液・造血器疾患		
	ク 内分泌疾患		
	ケ 代謝性疾患		
	コ 免疫疾患		
	サ 乳幼児		
	シ 小児		
	ス 高齢者		
	セ 妊娠		
18 歯科における全身的偶 発症	ア 血管迷走神経反射		
	イ 過換気症候群		
	ウ 局所麻酔薬中毒		
	エ アナフィラキシーショック		
	オ 血管収縮薬による反応		
	カ メトヘモグロビン血症		
	キ 誤飲と誤嚥		
	ク 全身疾患の増悪		
19 歯科治療時の患者管理	ア 麻酔管理		
	イ 術前管理		
	ウ 術中管理		
	エ 術後管理		

各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎顔面の機能障害〔約23%〕

大項目	中項目	小項目	備考
1 病態	ア 咬合・咀嚼障害		
	イ 摂食・嚥下障害		
	ウ 発語・構音障害		
	エ 審美障害		
	オ 社会・心理的障害		
	カ 顎関節症・口腔顔面痛		
	キ ブラキシズム		
	ク 睡眠時無呼吸症候群		
2 診察・検査・診断・前処置	ア 診察		
	イ 検査		咬合・顎機能の診察と検査、使用中の義歯の診察と検査、研究用模型による検査等を含む
	ウ 診断		
	エ 治療計画の立案		治療法の選択を含む
	オ 患者指導		
	カ 前処置		
3 補綴装置の要件	ア 生物学的要件		
	イ 機能的要件		
	ウ 形態的要件		
	エ 力学的要件		
	オ 咬合力の支持様式		
	カ 咬合様式		
	キ 審美的要件		
	ク 材料的要件		
	ケ 社会・心理的要件		
	コ 栄養的要件		
4 クラウンブリッジによる治療	ア 歯冠補綴装置の選択		
	イ ブリッジの設計		
	ウ 支台歯形成		
	エ 支台築造		
	オ プロビジョナルレストレーション		
	カ 印象採得		
	キ 作業模型の製作		
	ク 顎間関係の記録		
	ケ 咬合器装着・調節		
	コ ワックスパターン形成		
	サ 埋没		
	シ 鋳造、ろう付け、熱処理、研磨		
	ス 口腔内試適		
	セ 装着		
	ソ 患者指導		
5 部分床義歯による治療	ア 義歯の設計		義歯の構成要素を含む

大 項 目	中 項 目	小 項 目	備 考
	イ 印象採得		
	ウ 作業模型の製作		
	エ 顎間関係の記録		
	オ 咬合器装着・調節		
	カ サベイング		
	キ フレームワークの製作		
	ク 人工歯の選択・排列・削合		
	ケ 歯肉形成		
	コ 蠟義歯の試適		
	サ 埋没、重合		
	シ 咬合調整(削合)と仕上げ		
	ス 装着		
	セ 患者指導		
6 全部床義歯による治療	ア 義歯の設計		
	イ 印象採得		
	ウ 作業模型の製作		
	エ 顎間関係の記録		フェイスボウトランスファーを含む
	オ 咬合器装着・調節		
	カ 人工歯の選択・排列・削合		
	キ 歯肉形成		
	ク 蠟義歯の試適		
	ケ 埋没、重合		
	コ 咬合調整(削合)と仕上げ		
	サ 装着		
	シ 患者指導		
7 オーバーデンチャー	ア 基本構造		
	イ 利点と欠点		
8 インプラント義歯による治療	ア オッセオインテグレーションの獲得		初期固定(一次固定)、生物学的固定(二次固定)を含む
	イ 補綴装置の設計		アバットメントの種類、固定方法(スクリー固定、セメント固定)の選択、インプラントオーバーデンチャーを含む
	ウ インプラント埋入の治療計画		1 回法と 2 回法の選択を含む
	エ インフォームドコンセント		他の補綴歯科治療法との違いについての説明を含む
	オ 外科処置		コンピュータ支援手術、骨造成等の付随手術および 2 次手術の術式を含む

大項目	中項目	小項目	備考
	カ プロビジョナルレストレーション		荷重時期の選択を含む
	キ 補綴装置の印象採得		クローズドトレー法、オープントレー法を含む
	ク 顎間関係の記録		
	ケ 補綴装置の製作		
	コ 補綴装置の装着		
	サ 合併症		
	シ 患者指導		メンテナンスを含む
9 特殊な装置による治療	ア 顎顔面補綴装置による治療		
	イ オクルーザルスプリントによる治療		
	ウ 摂食嚥下補助床による治療		
	エ 構音補助床による治療		
	オ 下顎前方保持装置による治療		睡眠時無呼吸症候群の治療
10 管理	ア リコール		
	イ ホームケア、プロフェッショナルケア		
	ウ 残存組織の変化とその対応		
	エ 咬合の変化とその対応		
	オ 機能低下とその対応		
	カ 補綴装置の破損とその対応		
	キ 義歯の管理		
	ク 栄養指導		



## 各論VI 高齢者の歯科診療〔約6%〕

### ●高齢者の歯・歯髄・歯周組織の疾患

大項目	中項目	小項目	備考
1 歯の硬組織疾患	ア 齲蝕の特徴		
	イ 非齲蝕性硬組織疾患の特徴		
	ウ 歯の変色・着色の特徴		
	エ 歯の硬組織疾患への対応		
2 歯髄・根尖性歯周組織疾患	ア 歯髄疾患の特徴		
	イ 根尖性歯周組織疾患の特徴		
	ウ 歯髄・根尖性歯周組織疾患の治療		
3 歯周病	ア 歯周病の特徴		
	イ 歯周病への対応		
	ウ 歯周病と全身疾患の関わり		

### ●高齢者の軟組織に関連する疾患

大項目	中項目	小項目	備考
4 軟組織の損傷	ア 口腔軟組織の損傷		
	イ 顔面軟組織の損傷		
	ウ 損傷に対する治療		
5 軟組織の炎症	ア 口腔軟組織の炎症		
	イ 蜂窩織炎		
	ウ 菌性全身感染症		菌血症、敗血症
6 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患	ア 腫瘍類似疾患		義歯性線維腫
	イ 前癌病変、前癌状態		
	ウ 良性腫瘍		
	エ 口腔癌		
	オ 肉腫		
	カ 白血病		
	キ 悪性リンパ腫		
	ク 他臓器からの転移腫瘍		
	ケ 腫瘍に対する治療		姑息的治療、ターミナルケア
	コ 治療前後の管理		
7 口腔粘膜疾患	ア 口腔カンジダ症		
	イ 口腔乾燥症		
	ウ 帯状疱疹		
	エ 口腔扁平苔癬		
	オ 口角びらん、口角炎		
	カ 黒毛舌		
	キ 鉄欠乏性貧血		
	ク Hunter舌炎		
	ケ 褥瘡性潰瘍		
	コ 口腔粘膜疾患に対する治療		

### ●高齢者の硬組織に関連する疾患

大項目	中項目	小項目	備考
8 顎骨の損傷	ア 下顎骨骨折		

大項目	中項目	小項目	備考
	イ 関節突起骨折		
	ウ 頬骨・頬骨弓骨折		
	エ 骨折に対する治療		
9 顎骨の炎症	ア 顎骨炎		
	イ 顎骨骨膜炎		
	ウ 顎骨骨髓炎		
	エ 放射線骨壊死		
	オ 薬剤関連顎骨壊死・壊疽・顎骨骨髓炎		

●高齢者の機能に関連する疾患

大項目	中項目	小項目	備考
10 神経疾患	ア 舌痛症		
	イ 三叉神経痛		
	ウ 顔面神経麻痺		
	エ 義歯によるオトガイ神経圧迫		
	オ 口腔ジスキネジア		
	カ 中枢性神経麻痺		
	キ 味覚異常		
11 唾液腺疾患	ア 口腔乾燥症		放射線障害を含む
	イ 良性腫瘍		
	ウ 悪性腫瘍		
	エ 腫瘍類似疾患		
	オ 唾液腺疾患の治療		
12 顎関節疾患	ア 顎関節脱臼		
	イ 顎関節症		変形性{顎}関節症
	ウ リウマチ性顎関節炎		
	エ 顎関節疾患の治療		

●高齢者に多い留意すべき全身疾患

大項目	中項目	小項目	備考
13 管理に留意すべき全身疾患	ア 循環器疾患		高血圧性疾患、脳梗塞、虚血性心疾患
	イ 悪性新生物		大腸癌、肺癌、胃癌
	ウ 呼吸器疾患		気管支炎、慢性閉塞性肺疾患<COPD>、肺炎
	エ 腎臓疾患		腎不全
	オ 精神・心身医学的疾患		うつ病、認知症
	カ その他の高頻度に見られる全身疾患・症状		胃食道逆流症<GERD>、血液透析、糖尿病、骨粗鬆症
	キ 要介護の原因疾患		脳血管疾患、認知症、Parkinson病、肺炎、転倒・骨折、廃用症候群

●高齢者の口腔管理と摂食・嚥下機能に関する障害および治療

大項目	中項目	小項目	備考
14 訪問歯科診療	ア 口腔管理プランの策定		
	イ 口腔衛生管理のための口腔のケア		
	ウ 口腔機能管理のための口腔のケア		
	エ 補綴装置の管理		
15 摂食・嚥下機能	ア 摂食・嚥下機能の加齢変化		
	イ 摂食・嚥下障害の病因・病態		
	ウ 摂食・嚥下障害の評価・検査		
	エ 摂食・嚥下障害の主な原因		
	オ 摂食・嚥下に関与する諸因子		
16 摂食・嚥下障害	ア 摂食・嚥下障害の評価・検査	a 身体所見	
		b 栄養、食事	
		c スクリーニングテスト	
		d 検査	
	イ 摂食・嚥下障害の対応	a リハビリテーションの理念	
		b 間接訓練	
		c 直接訓練、段階的摂食訓練	
		d 食事指導、食事介助	
		e 歯科的アプローチ	摂食・嚥下機能および音声言語機能改善のための補助装置
17 高齢者の栄養管理	ア 栄養状態の評価		
	イ 食内容の管理		
	ウ 食形態の管理		
	エ 栄養療法	a 経口栄養	
		b 経静脈栄養	
		c 経管栄養	
	オ 栄養指導		

●高齢者の補綴歯科治療

大項目	中項目	小項目	備考
18 補綴歯科治療	ア 残存組織の変化とその対応		
	イ 咬合の変化とその対応		
	ウ 機能低下とその対応		
	エ 補綴装置の破損とその対応		
	オ 義歯の管理		

# 索引

# 索引

## 1

18トリソミー症候群..... 35, 46  
1歳6か月児..... 2

## 2

21トリソミー..... 35, 46  
21トリソミー症候群..... 35, 46

## 3

3歳児..... 2

## 5

5p-症候群..... 35

## 8

8020運動..... 2

## A

Addison病..... 43, 47  
ADHD..... 23  
ADL..... 15  
AIDS..... 10, 47  
Alzheimer病..... 10  
Apert症候群..... 35, 46  
ASD..... 23

## B

Beckwith-Wiedemann症候群.... 35  
Bednarアフタ..... 36  
Beggタイプリテーナー..... 37  
Behçet病..... 42  
Blandin-Nuhn {腺} 嚢胞.... 36, 45  
BLS..... 7  
BMI..... 4

## C

CAD/CAM..... 30  
complex regional pain syndrome  
..... 45  
COPD..... 10  
Crouzon症候群..... 35, 46  
CT..... 7, 24  
Cushing病..... 47

## D

DIC..... 47  
DLE..... 47  
Down症候群..... 35, 46

## E

EBAセメント..... 31  
EBM..... 7, 23  
ED<sub>50</sub>..... 10  
Edwards症候群..... 35, 46  
EMG症候群..... 35, 46

## F

Fränkel装置..... 37  
Frey症候群..... 45

## G

Gardner症候群..... 46  
GCP..... 2, 28  
GERD..... 10, 53  
Goldenhar症候群..... 35, 46  
GVHD..... 6, 47

## H

Hawleyタイプリテーナー..... 37  
Hunter舌炎..... 43, 52  
Hunt症候群..... 45, 46

## I

ICF..... 2  
ICG試験..... 25  
ICIDH..... 2  
Interventional Radiology.... 28  
IRB..... 28  
ITP..... 47  
TIP..... 47  
IVR..... 28

## K

Kaup指数..... 4  
Klinefelter症候群..... 35  
Koplik斑..... 36

## L

Langerhans細胞性組織球症.... 44  
LD..... 23  
LD<sub>50</sub>..... 10

## M

Marfan症候群..... 35, 46  
McCune-Albright症候群... 43, 46  
Melkersson-Rosenthal症候群.. 46  
MRI..... 24

## N

Nanceのホールディングアーチ. 37  
NST..... 27

## O

OFD症候群..... 46  
Osler病..... 47

## P

Papillon-Lefèvre症候群.. 35, 46  
Parkinson病..... 10, 53  
PEG..... 10  
PET..... 24  
Peutz-Jeghers症候群..... 42, 46  
Pierre Robin症候群..... 35, 46

## Q

QOL..... 2, 15, 27  
quality of life..... 2, 15, 27  
Quincke浮腫..... 47

## R

Ramsay Hunt症候群..... 45, 46  
Riga-Fede病..... 36  
Robinシークエンス..... 35, 46  
Rohrer指数..... 4  
Russell-Silver症候群..... 35

## S

SIRS..... 41  
Sjögren症候群..... 45  
SLE..... 42, 47  
SOAP..... 3  
SPECT..... 24  
SPT..... 40  
Stevens-Johnson症候群..... 42  
Sturge-Weber症候群..... 46  
supportive periodontal  
therapy..... 40

## T

TDM..... 10  
therapeutic drug monitoring. 42  
TEN..... 42  
THP..... 2  
Tooth Wear..... 34, 39  
Treacher Collins症候群.. 35, 46  
Turner症候群..... 35  
Turnerの歯..... 36

## V

von Recklinghausen病 .... 43, 46  
von Willebrand病 ..... 10, 47

## あ

挨拶..... 5  
アクシデント..... 3  
悪心..... 5, 22  
悪性黒色腫..... 42  
悪性腫瘍..... 10, 20, 45, 53  
悪性新生物..... 23, 53  
悪性貧血..... 47  
悪性リンパ腫..... 42, 47, 52  
アクチバトール..... 37  
圧痛..... 5  
アナフィラキシーショック 10, 48  
アパットメントの種類..... 50  
アブフラクション..... 34, 39  
アミロイドーシス..... 47  
アルコール・薬物依存症..... 10  
アルジネート..... 29  
アルドステロン症..... 47  
アルマ・アタ宣言..... 2  
アルミナ..... 30  
アレルギー..... 20  
アレルギー疾患..... 47  
アレルギー性紫斑病..... 47  
アレルギー反応..... 20  
アレルギー歴..... 5  
安全域..... 10  
安全性..... 3  
安全と感染への配慮..... 6

## い

胃潰瘍..... 10  
医学史..... 11  
胃癌..... 53  
息切れ..... 5, 22  
医原病..... 20  
医事衛生法規..... 14  
意識障害..... 5, 22  
意識障害の評価..... 7  
意識状態..... 6  
医事紛争..... 3

萎縮..... 8, 20  
異常咬頭・結節..... 36  
移植..... 26  
胃食道逆流症..... 10, 53  
移植片対宿主病..... 6, 47  
異所性エナメル質..... 36  
異所性唾液腺..... 44  
鋳接..... 30  
一次救命処置..... 7  
一次固定..... 50  
一般教養..... 11  
一般的症候..... 22  
一般臨床検査..... 7, 24  
遺伝..... 17  
遺伝子..... 4, 17  
医の倫理..... 2  
異物処理..... 20  
医薬品・医療機器による健康被害  
..... 3  
医薬品・医療機器の安全管理... 3  
医薬品の臨床試験の実施の基準..  
..... 2, 28  
医療安全対策..... 3  
医療過誤..... 3  
医療関係職種..... 14  
医療機関..... 14  
医療機関でのチームワーク... 10  
医療危機管理..... 3  
医療記録..... 3  
医療計画..... 14  
医療経済..... 14  
医療裁判..... 3  
医療事故..... 3  
医療事故報告書..... 3  
医療者の安全管理..... 3  
医療情報の収集..... 7, 23  
医療情報の収集・提供..... 5  
医療政策..... 14  
医療訴訟..... 3  
医療の質の確保..... 3  
医療廃棄物処理..... 3  
医療法..... 2  
医療保険・介護保険..... 14  
医療保障・社会福祉・介護保険  
関連法規..... 14  
医療面接..... 5, 23  
医療連携..... 14  
医療連携・チーム医療..... 23

胃瘻	10
因果関係の成立	16
インシデント	3
インシデントレポート	3
飲酒	3
印象材	10
印象採得	9, 49, 50
印象用材料	29
印象用石膏	29
印象用トレー	29
印象用ワックス	29
咽頭	18
院内感染対策	3, 16
院内感染対策委員会	3
インフォームドコンセント	2, 50
インプラントオーバーデンチャー	50
インプラント義歯	50
インプラント材料	31
インプラントにおけるオッセオ インテグレーション	29
インプラントの基本構造	31
インプラント埋入の治療計画	50
インレーワックス	29

## う

ウイルス感染症	46
ウイルス性肝炎	46
ウイルス性唾液腺炎	45
ウイルスによるアフタ性潰瘍	6
齶蝕の予防効果の評価	34
齶蝕	5, 39
齶蝕の疫学要因	16
齶蝕の特徴	52
齶蝕の病因	34
齶蝕の予防・管理	34
齶蝕の予防手段	34
齶蝕のリスクファクター	39
齶蝕予防法の評価	7
齶蝕予防薬	28
齶蝕リスク検査・評価	34
現病歴	5
うつ病	10, 53
裏層材	29
上皮組織	17
運動	3, 15
運動・感覚機能	19
運動器系	17, 19

運動障害	5
運動の発達	4
運動麻痺	5
運動療法	28

## え

エアータービン	29
永久歯の間接修復法	39
永久歯の直接修復法	39
永久歯列期の不正咬合の治療	38
衛生行政の組織	14
栄養	6, 15, 22, 54
栄養管理	26, 27
栄養サポートチーム	27
栄養指導	51, 54
栄養障害	47
栄養状態の評価	54
栄養的要件	49
栄養と食生活	3
栄養療法	10, 54
疫学研究の倫理指針	2
疫学指標	16
疫学とその応用	16
疫学の概念	16
壊死	8
壊死性潰瘍性歯肉口内炎	42
壊死性歯周疾患	40
壊疽	8
壊疽性口内炎	42
エックス線画像の形成	24
エックス線撮影	7
エックス線撮影装置	9
エックス線撮影装置・器材	24
エナメル滴	36
エナメル質	18
エナメル質形成不全(症)	35, 36
エナメル質減形成症	35, 36
エナメル質被着面処理	30
エナメル突起	36
エプーリス	42
エラスティック	31
嚥下	4, 18, 19
嚥下機能検査	24
炎症	8, 20
炎症性疾患	8
炎症に関与する細胞	20
炎症に対する治療	41, 44

炎症の概念	20
炎症の機序・病態	20
炎症の原因	20
炎症反応	7
円錐歯	36
円板状エリテマトーデス	47

## お

嘔吐	5, 8, 18, 22
オーバーデンチャー	50
オープントレー法	51
オクルーザルスプリント	51
オタワ憲章	2
オッセオインテグレーション	50
オトガイ帽装置	37
温熱	28

## か

外因性色素沈着	42
外頸動脈	4
壊血病	47
介護	11, 14, 23
開口・閉口障害	22
介護施設	14
介護保険	3
介護予防	2
介助	23
外傷	3
外傷性(顎)関節炎	45
外傷歯の治療	40
外歯瘻	44
介入研究	16
外表	22
外来	8
外来異物	45
解離性障害	47
会話のマナー	5
カウンセリング	28
顔色	6
顔貌の対称性	6
下顎位	18
下顎位検査	24
下顎運動	6, 18
下顎運動検査	24
下顎窩	4
下顎顔面異骨症	35, 46

下顎骨折..... 43, 52	過形成..... 20	仮封材..... 29
下顎前方保持装置..... 51	鷲口瘡..... 42	加齢..... 19
化学的プラークコントロール... 3	荷重時期の選択..... 51	加齢・老化による歯・口腔・顎・顔面の変化..... 19
下顎頭..... 4	過剰歯..... 35	加齢による歯・口腔・顎・顔面の変化..... 4
下顎頭形成術..... 43	画像記録..... 3	感覚異常..... 6
下顎頭欠損..... 35, 43, 45	画像検査..... 7, 24	感覚器系..... 4, 17
下顎頭肥大..... 35, 45	画像診断支援システム..... 24	感覚障害..... 22
化学療法..... 42	画像情報システム..... 24	眼窩壁吹き抜け骨折..... 43
かかりつけ歯科医機能..... 14	家族との連携..... 11	環境汚染の発生要因・健康影響..... 16
過換気症候群..... 48	家族背景..... 7	環境汚染の評価と対策..... 16
顎..... 19	家族歴..... 5	環境と疾患..... 20
顎・顎関節の疾患..... 21	学校安全..... 15	環境と適応..... 16
顎・口腔領域の反射..... 18	学校歯科保健..... 15	環境保健..... 16
顎間関係の記録... 9, 49, 50, 51	学校歯科保健管理..... 15	肝硬変..... 10
顎関節..... 18, 19, 22	学校歯科保健教育..... 15	観察研究..... 16
顎関節・筋機能検査..... 24	学校保健..... 2, 15	含菌性嚢胞..... 44
顎関節強直症..... 45	学校保健関係者..... 15	患者・障害者の心理と態度..... 2
顎関節疾患..... 8, 34, 35, 45	学校保健の領域・内容..... 15	患者・障害者のもつ心理・社会的問題..... 2
顎関節疾患の治療..... 46, 53	顎骨..... 22	患者管理..... 23
顎関節症..... 46, 53	顎骨・顎堤の変化..... 5	患者管理の基本..... 10
顎関節症・口腔顔面痛..... 49	顎骨炎..... 44, 53	患者歯科医師関係の確立..... 5
顎関節脱臼..... 45, 53	顎骨形成術..... 43	患者指導..... 49, 50, 51
顎関節の機能..... 18	顎骨骨髓炎..... 44, 53	患者説明文書..... 3
顎関節の検査..... 7	顎骨骨膜炎..... 44, 53	患者中心の歯科医療..... 2
顎関節の構造..... 4	顎骨周囲炎..... 44	患者の安全管理..... 3
顎関節の腫瘍・腫瘍類似疾患... 46	顎骨周囲軟組織の炎症..... 44	患者の確認..... 6
顎関節の症候..... 5	顎骨腫瘍の外科療法..... 44	患者の権利と義務..... 2
顎関節の変化..... 5, 21	顎骨に発生する腫瘍・腫瘍類似疾患..... 44	患者の指導..... 5
顎顔面インプラント治療..... 44	顎骨に発生する腫瘍・腫瘍類似疾患に対する治療..... 44	患者の人権と医療..... 2
顎顔面骨の変形に対する治療... 43	顎骨に発生する嚢胞性疾患..... 44	患者の体位..... 6, 9
顎顔面頭蓋部エックス線検査... 24	顎骨の炎症..... 53	患者背景..... 5
顎顔面に異常を来す骨系統疾患・症候群..... 43	顎骨の形態変化..... 21	患者への説明..... 6
顎顔面の変形を来す疾患・病態... 43	顎骨の再建..... 44	患者満足度..... 3
顎顔面補綴..... 44	顎骨の症候..... 5	肝障害..... 10
顎顔面補綴装置による治療... 51	顎骨の損傷..... 52	間食指導..... 34
顎矯正手術..... 43	合併症..... 9, 51	癌性疼痛..... 45
顎口腔領域の発育異常..... 35	滑膜骨軟骨腫症..... 46	癌性疼痛治療法..... 27
学習障害..... 23	窩洞形成法..... 39	関節液..... 7
顎整形力..... 37	加熱・加圧形成..... 30	関節円板..... 4
喀痰..... 5, 22	加熱重合..... 30	間接訓練..... 54
顎堤の状態..... 10	加熱重合型アクリルレジン... 30	関節結節..... 4
学童期..... 4, 19	化膿性舌炎..... 43	関節雑音..... 5
顎動脈..... 4	過敏症..... 20	間接作用..... 9
獲得免疫..... 4, 17	ガンマ腫..... 36, 45	関節痛..... 5
顎変形症..... 43	ガラスセラミックス..... 30	関節突起骨折..... 43, 45, 53
顎変形症の治療..... 38	カラベリー結節..... 36	
隔離..... 8		



関節突起発育不全	35, 45
関節包	4
関節リウマチ	47
感染	3
感染根管治療法	39
感染根管の治療	9
感染症	8, 20, 23
感染症対策	16
感染症の疫学	16
感染症の血清学的診断	7
感染性顎関節炎	45
感染の概念	20
感染予防	26
がん治療患者の管理	42
寒天	29
がんの告知	42
顔貌の変化	21
顔面	18, 19, 22
顔面けいれん	45
顔面神経	4
顔面神経麻痺	45, 53
顔面頭蓋の成長発育	19
顔面動脈	4
顔面軟組織の損傷	41, 52
顔面の変化	5
顔面皮膚の感覚	18
顔面裂	35, 41
管理に留意すべき全身疾患	53
寒冷	28
緩和医療	26, 42
緩和ケア	27
緩和療法	26

き

既往歴	5
既往歴・投与薬物との関連	7
機械的ブランクコントロール	3
機械的性質	29
器械の安全な取扱法	9
器官系	4, 17
気管支炎	10, 53
気管支喘息	10
技工指示書	3
義歯性線維腫	42, 52
義歯によるオトガイ神経圧迫	53
義歯の管理	51, 54
義歯の構成要素	49

義歯の診察と検査	49
義歯の設計	49, 50
義歯床用裏装材	30
基準値	7
基準範囲の概念	7
義歯用材料	10, 30
基礎代謝検査	25
基礎床材料	30
喫煙	3
喫煙歴	5
拮抗作用	10
基底細胞母斑症候群	46
気道確保	7
機能印象材	29
気分(感情)障害	47
希望	5
基本構造	50
基本手技	6
基本的器材	8
基本的救急薬品	7
基本的術式	9
基本的使用法	9
基本的性質	10
肝・胆道機能検査	25
肝疾患	23
客観的情報	3
キューとケア	26
嗅覚	18
救急・災害時等の歯科保健医療 対策	14
救急医療	26
救急患者の診察	7
救急時の診察	23
救急処置	7
救急処置を要する症状	8
臼歯部の咬合状態	6
吸収	9
吸啜	18
急性・慢性肝炎	10
急性炎症	20
急性症状を有する歯周病への対応	40
急性白血病	6, 10
急速拡大装置	37
吸入鎮静法	9
吸入鎮静法・静脈内鎮静法	27
吸入麻酔法	9
吸入麻酔薬	26

休養	15
頬	4, 18
狭義の矯正力	37
凝固・線溶	7
頬骨・頬骨弓骨折	43, 53
胸骨圧迫	7
経静脈栄養	10
狭心症	10
矯正装置	37
矯正力と固定	37
経腸栄養	10
胸痛	5, 8, 22
頬粘膜癌	41
業務上疾病	15
協力作用	10
局所作用	9
局所的応用	3
局所の血液分布異常	20
局所麻酔	9
局所麻酔法	9, 26
局所麻酔薬	9, 26
局所麻酔薬中毒	48
虚血性心疾患	53
巨細胞性病変	44
巨舌症	36
巨大歯	36
居宅	8
亀裂	5
禁煙指導・支援	15, 34
禁忌	8, 10
筋機能療法	28
金銀パラジウム合金	30
筋系	4
菌血症	41, 52
金合金	30
銀合金	30
菌交代現象	10
菌交代症	6, 10
筋弛緩薬とその拮抗薬	27
金属アレルギー	47
金属材料	29
金属によるアレルギー性変化	6
金属の成形技術・機器	30
金属被着面処理	31
金属焼付陶材	30
筋組織	4, 17
筋電図・神経伝導検査	25
筋肉	9

筋の検査.....	7
筋の症候.....	5
筋の変化.....	5

## く

偶発症.....	9, 38
くさび状欠損.....	34, 39
クラウンブリッジによる治療..	49
グラスアイオノマーセメント....	29, 31
クリニカルパス.....	3
くる病.....	47
クローズドトレイ法.....	51
クワドヘリックス装置.....	37

## け

計画.....	3
経管栄養.....	10, 27, 54
経口栄養.....	10, 27, 54
刑事裁判.....	3
芸術などに関連する一般教養的 知識や考え方.....	11
経静脈栄養.....	27, 54
形成異常.....	39
形態的变化.....	5, 19
形態的要件.....	49
形態の異常.....	5
傾聴の仕方.....	5
頸部郭清術.....	42
けいれん.....	5, 8, 22
外科処置.....	50
外科的侵襲に対する反応.....	26
外科的歯内療法.....	40
外科療法.....	42
化生.....	20
血圧.....	6
血圧上昇・低下.....	5, 22
血液.....	4, 17, 22
血液・血液製剤の安全性.....	3
血液・造血管疾患.....	48
血液学検査.....	24
血液型・輸血関連検査.....	7
血液疾患.....	47
血液疾患・出血性素因に対する 観血的治療.....	47
血液障害.....	10

血液透析.....	53
結核.....	47
結核・梅毒による粘膜潰瘍.....	6
結果の解釈.....	7
血管.....	22
血管収縮薬.....	9
血管収縮薬による反応.....	48
血管収縮薬の併用.....	26
血管迷走神経反射.....	48
血球検査.....	7
血小板無力症.....	47
血清カルシウム調節機構.....	17
血友病.....	10
血友病A・B.....	47
下痢.....	5, 22
原因療法.....	8, 26
研究用模型.....	49
健康・疾病・障害の概念.....	14
健康・疾病の概念.....	8
健康意識・疾病構造.....	2
健康危機管理.....	2
健康教育・学習.....	15
健康診断.....	15
健康増進計画.....	14
健康増進事業.....	2
健康増進と疾病予防.....	2
健康増進法.....	2
健康相談.....	15
健康づくり.....	15
健康に関わる要因.....	14
健康日本21.....	2
健康の概念.....	14
健康の保持・増進と予防.....	15
言語機能.....	19
言語治療.....	41
言語の発達.....	4
検査.....	7, 24, 37, 49, 54
検査・診断に伴う医原病.....	20
検査情報検索システム.....	24
検査所見記録.....	3
検査における医療情報.....	24
検査の安全.....	7
検査の合併症.....	7
検査の基本.....	7
犬歯間保定装置.....	37
原始性嚢胞.....	44
原始反射.....	4
現状.....	15, 16

## こ

検体検査.....	7, 24
検体の採取・保存.....	24
顕微鏡を用いた歯内療法.....	40
研磨.....	49
研磨剤.....	29
誤飲.....	3
誤飲と誤嚥.....	8, 48
抗アレルギー薬.....	27
抗ウイルス薬.....	27
抗炎症薬.....	27
構音.....	4, 18
構音機能.....	10
構音機能検査.....	24
構音障害.....	22
構音障害のリハビリテーション	27
構音機能障害.....	27
構音補助床による治療.....	51
口蓋.....	4, 18, 19
口蓋の異常.....	41
口蓋癌.....	41
公害の健康影響と対策.....	16
口角炎.....	43, 52
口角びらん.....	36, 43, 52
抗感染薬.....	27
高気圧酸素療法.....	28
口峽.....	4, 18
抗菌薬.....	27
抗菌薬の適正使用と薬剤耐性菌	3
口腔・顎・顔面・頭頸部の機能	18
口腔・顎・顔面の一般的症候...	5
口腔・顎・顔面の構造.....	18
口腔・顎・顔面の診察.....	6
口腔・顎顔面の構造・機能.....	4
口腔・顎顔面領域に症状を伴う 全身疾患.....	21
口腔・顎の機能の発達.....	19
口腔・顔面・指趾症候群.....	46
口腔・顔面領域の疼痛.....	20
口腔衛生管理.....	42
口腔癌.....	34, 52
口腔環境の評価.....	10, 26
口腔カンジダ症.....	42, 52
口腔乾燥.....	22
口腔乾燥症.....	34, 43, 45, 48, 52, 53

口腔癌の疫学要因	16
口腔管理プランの策定	54
口腔機能回復治療	40
口腔機能管理	10, 27
口腔機能検査	24
口腔機能障害	22
口腔機能のリハビリテーション	10
口腔ケア	42
口腔結核	41
口腔ジスキネジア	53
口腔疾患の治療に伴う変化	21
口腔習癖とその対応	37
口腔症状に対する治療	48
口腔症状を呈する疾患	46
口腔診察用器材の準備と選択	6
口腔清掃	3
口腔清掃行動	3
口腔清掃指導	34
口腔清掃状態	10
口腔清掃状態検査	24
口腔清掃の意義	34
口腔清掃法	34
口腔前庭	4, 18
口{腔}底	4, 18
口腔内検査	24
口腔内試適	49
口腔軟組織の炎症	41, 52
口腔軟組織の損傷	41, 52
口腔に症状を現す血液疾患・ 出血性素因	8
口腔粘膜	6, 22
口腔粘膜疾患	8, 34, 42, 52
口腔粘膜疾患に対する治療	43, 52
口腔粘膜の疾患	21
口腔粘膜の症候	5
口腔粘膜の状態	10
口腔粘膜の変化	5
口腔の環境・機能	15
口腔の機能	4
口腔のケア	3
口腔の形態・機能の変化	21
口腔の構造	4
口腔の小手術	26
口腔の診察・検査	15, 20, 22
口腔の生態系	4, 18
口腔バイオフィルム	4, 18
口腔梅毒	41
口腔扁平苔癬	42, 52

口腔領域に関連して現れる心因 性病態	47
口腔領域の放射線治療	27
高血圧症	10
高血圧性疾患	23, 53
抗血栓薬	28
膠原病	10
咬合	4, 22
口腔・顎顔面に異常を来す骨系 続疾患・症候群	46
咬合・顎機能の診察と検査	49
咬合・咀嚼障害	8, 49
咬合器	9
咬合器装着・調節	49, 50
咬合挙上板	37
咬合斜面板	37
口腔上顎洞瘻	44
咬合状態	10
咬合性外傷	40
咬合接触	18
咬合調整	50
咬合の変化とその対応	51, 54
咬合誘導の考え方	36
咬合様式	18, 49
咬合力検査	24
咬合力の支持様式	49
公衆衛生活動・地域保健活動	14
口臭検査	24
口臭の原因	34
口臭の診断	34
口臭の予防・管理	34
口臭の予防・治療	34
抗腫瘍薬	27
溝{状}舌	43
甲状舌管嚢胞	41
甲状腺機能亢進症	10, 47
甲状腺機能低下症	10, 47
口唇	4, 18
口唇・頬部の異常	41
口唇・口蓋裂	35, 41
口唇炎	36
口唇癌	41
抗真菌薬	27
口唇ヘルペス	36
向精神薬	28
酵素	7
構造異型	20
硬組織	7

硬組織欠損	5
硬組織代謝改善治療薬	28
抗体	7
合着・接着・仮着用材料	31
合着・接着材	10
合着・接着法	9
口底癌	41
後天性免疫不全症候群	10, 47
後天性免疫不全症候群による カンジダ症・歯周病	6
喉頭	18
行動変容	2
行動療法	28
行動レベル	2
高度な気道管理	26
口内法	7
口内法エックス線検査	24
紅板症	42
効率性	7
効率とリスク	7
高齢者	10, 48
高齢者の栄養管理	54
高齢者の治療	26
高齢者の特性	15
高齢者への対応	23
高齢者保健	2, 15
咬耗症	34, 39
誤嚥	3
誤嚥性肺炎など関連するリスク	34
呼吸	4, 6, 18
呼吸器	22
呼吸器系	4, 17
呼吸器疾患	48, 53
呼吸器障害	10
呼吸機能検査	25
呼吸困難	5, 8, 22
呼吸障害	22
呼吸理学療法	28
国際障害分類	2
国際生活機能分類	2
国際保健	14
国際保健・医療協力	14
国民医療費	2
国民栄養と食品保健	16
国民栄養の現状	16
黒毛舌	43, 52
個人識別	14
個人情報保護	3

姑息的治療.....	52
個体差.....	9
個体の死.....	21
骨移植術.....	43
骨延長術.....	43
骨格・筋系.....	17, 19
骨格系.....	4
骨関連病変.....	44
骨形成不全症.....	35, 46
骨接合・顎骨再建プレート....	31
骨折に対する治療.....	53
骨折の様態.....	43
骨増生.....	43, 44
骨造成等の付随手術および2次 手術の術式.....	50
骨増量術.....	43
骨粗鬆症.....	10, 53
骨軟骨腫症.....	46
骨の形成・吸収・改造.....	19
骨補填材.....	31
骨隆起.....	44
固定.....	37
固定方法(スクリュー固定、 セメント固定)の選択.....	50
言葉遣い.....	5
コバルトクロム合金.....	30
コミュニケーション....	5, 9, 10
誤薬.....	3
固有口腔.....	4, 18
暦年齢.....	4
根管充填.....	39
根管充填材.....	29
根管処置.....	39
根管処置後の歯冠修復.....	40
根拠に基づいた医療.....	23
根拠に基づいた医療<EBM>.....	7
コンサルテーション.....	11
根尖・辺縁歯周組織の症候....	5
根尖・辺縁歯周組織の症状....	6
根尖歯周組織・辺縁歯周組織...	4
根尖歯周組織検査.....	7, 24
根尖性歯周組織疾患... 8, 21, 39	
根尖性歯周組織疾患が全身に 及ぼす影響.....	39
根尖性歯周組織疾患の治療. 9, 39	
根尖性歯周組織疾患の特徴....	52
根治療法.....	8
コンピュータ支援手術.....	50

根分岐部病変の治療.....	40
コンポジットレジン.....	29
根未完成歯の治療.....	39
根面齲蝕の予防.....	34

## さ

サーカムフェレンシャルタイプ リテーナー.....	37
細菌感染症.....	47
再建術.....	42
再建療法.....	26
再根管治療.....	39
再植.....	26
再生.....	20
再生療法.....	26
在宅医療.....	14
在宅歯科医療.....	14, 23
採得.....	50
鰓嚢胞.....	41
細胞.....	4, 17
細胞異型.....	20
細胞間情報伝達機構.....	17
細胞死.....	20
細胞診.....	7, 25
細胞組織の傷害.....	20
細胞内小器官の構造・機能....	4
細胞の構造・機能.....	17
材料的要件.....	49
作業関連疾患.....	15
作業模型の製作.....	49, 50
鎖骨頭蓋異骨症.....	35, 46
鎖骨頭蓋骨異形成症.....	35, 46
サバイビング.....	50
酸塩基平衡.....	7
酸化亜鉛ユージノール.....	29
酸化亜鉛ユージノールセメント	31
暫間補綴・修復用材料.....	30
産業歯科保健.....	15
産業保健.....	2, 15
三叉神経.....	4
三叉神経痛.....	45, 53
三叉神経麻痺.....	45
酸蝕症.....	34, 39
酸素療法.....	7, 28
残存歯の状態.....	10
残存組織の変化とその対応 51, 54	

## し

歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷 .....	43
シートワックス.....	29
歯科医学史.....	11
歯科医師と患者・家族との関係. 2	
歯科医師法.....	2
歯科医療に必要な基本的医学英語 .....	11
歯科医療の質と安全の確保.....	3
歯科医療の社会的背景.....	2
歯科衛生士法.....	2
歯科技工士法.....	2
歯科矯正用材料.....	31
歯科健康診査.....	2
歯科口腔保健の推進に関する法律 .....	2, 15
歯科材料.....	10
歯牙腫.....	36
歯科集団検診.....	16
歯科接着技術・機器.....	30
歯科鑄造.....	9
歯科治療上留意すべき事項....	23
歯科治療時の患者管理.....	48
歯科的アプローチ.....	54
歯科における全身的偶発症....	48
歯科法医学.....	14
歯科用アマルガム.....	29
歯科用コーンビームCT....	7, 24
歯科用磁性合金.....	30
歯科用石膏.....	29
歯科用ユニット.....	9, 29
歯科用ワックス.....	29
歯科領域における疫学調査....	16
歯科領域における統計指標....	16
歯冠周囲炎.....	41
歯冠修復用材料.....	29
歯冠補綴装置の選択.....	49
色素性母斑.....	42
色調の変化.....	5
シクロスポリン歯肉増殖症....	42
止血.....	9
止血法.....	7, 26
止血薬.....	28
歯原性悪性腫瘍.....	44
歯原性良性腫瘍.....	41, 44
自己決定権.....	2

自己紹介.....	6
自己責任と自分の限界.....	11
事後措置.....	15
死後変化.....	14
自己免疫疾患.....	20, 47
歯根外部吸収.....	39
歯根の異常.....	36
歯根嚢胞.....	44
歯根膜.....	18
歯根膜の感覚.....	4
支持組織.....	4, 17
歯質・歯の欠損による障害の治療.....	9
歯質接着処理材.....	29
脂質代謝関連物質.....	7
歯周炎.....	40
歯周炎のリスクファクター.....	40
歯周基本治療.....	40
歯周形成手術.....	40
歯周外科治療.....	40
歯周疾患検診.....	2
歯周-歯内病変.....	40
歯周靱帯.....	18
歯周組織再生治療.....	40
歯周組織の形成.....	19
歯周組織の構造・組成.....	4
歯周組織の膿瘍.....	40
歯周組織の変化.....	4
歯周治療・口腔外科・インプラント用材料.....	31
歯周嚢胞.....	44
歯周病.....	8, 52
歯周病と健康の関わり.....	40
歯周病と生活習慣病のリスク.....	34
歯周病と全身疾患の関わり.....	52
歯周病の疫学要因.....	16
歯周病の抗菌療法.....	40
歯周病の治療.....	9, 40
歯周病の特徴.....	40, 52
歯周病の病因.....	34
歯周病の予防・管理.....	34
歯周病の予防効果の評価.....	34
歯周病の予防手段.....	34
歯周病のリスクファクター.....	34
歯周病への対応.....	40, 52
歯周病予防法の評価.....	7
思春期.....	4, 19
視診.....	6

歯髄.....	7
歯髄・根管処置における偶発症と安全対策.....	40
歯髄・根尖歯周組織.....	22
歯髄・根尖性歯周組織疾患.....	39, 52
歯髄検査.....	24
歯髄疾患.....	8, 21, 39
歯髄疾患の治療.....	9
歯髄疾患の特徴.....	52
歯髄除去療法.....	39
歯髄の感覚.....	4
歯髄の症候.....	5
歯髄の症状.....	6
歯髄保存療法.....	39
姿勢.....	6
歯性上顎洞炎.....	41, 44
歯性全身感染症.....	41, 52
歯性病巣感染.....	41
歯性扁桃周囲炎.....	41
施設.....	8
自然科学.....	11
自然治癒.....	8
自然免疫.....	4, 17
歯槽骨・顎骨の炎症.....	44
歯槽骨炎.....	44
歯槽骨骨折.....	43
歯槽骨.....	18
死体解剖と死因究明制度.....	14
支台歯形成.....	49
支台築造.....	49
支台築造材.....	30
下垂体性巨人症.....	47
下垂体性小人症.....	47
市町村.....	14
疾患の治療.....	8
実施(必要性)の説明.....	7
失神.....	5, 8, 22
疾病・障害の概念・構造.....	2
疾病の概念.....	8
疾病の自然史と対応.....	14
質問法.....	5
児童虐待.....	15
歯内-歯周疾患.....	39
歯内-歯周疾患の治療.....	40
歯内歯.....	36
歯内療法用材料.....	10, 29
歯肉.....	18
歯肉の異常.....	41

歯肉形成.....	50
歯肉出血.....	6
歯肉増殖.....	6
歯肉退縮.....	40
歯肉嚢胞.....	41
歯肉肥厚.....	6
歯肉病変.....	40
死の概念・判定.....	21
自発痛.....	5
自閉症スペクトラム障害.....	23
死亡診断書.....	3
社会・心理的障害.....	49
社会・心理的要件.....	49
社会科学.....	11
社会環境の変化.....	14
社会生活.....	11
社会性の発達.....	4
社会的関わり.....	2
社会的支援.....	11
社会的側面.....	7
社会的特徴.....	23
社会と歯科医療.....	2
社会復帰.....	11, 42
社会保障制度.....	11, 14
社会保障と医療経済.....	14
社会歴.....	5
住居と健康.....	16
重合.....	50
周術期.....	10
十二指腸潰瘍.....	10
修復と再生.....	20
修復用材料.....	10
主観的情報.....	3
宿主側の因子.....	20
腫瘍.....	5
種差.....	9
手術・周術期の管理.....	26
手術基本手技.....	26
手術記録.....	3
手術室.....	9
手術の適応.....	26
手術野の防湿・消毒.....	9
主訴.....	5, 26
腫脹.....	5
出血.....	3, 5
出血性素因.....	6, 10, 47
術後管理.....	26, 48
術後性上顎嚢胞.....	44



術者の姿勢・位置..... 6	使用器材..... 8	触診..... 6
出生前期..... 4	症候との関連..... 7	食生活指針..... 16
術前管理..... 26, 48	常在微生物叢..... 4, 18	食生活と健康課題..... 34
術前管理と麻酔前投薬..... 27	照射の有害反応..... 27	褥瘡性潰瘍..... 52
術中・術後管理とモニタリング..... 27	上唇・舌小帯異常..... 36	食内容の管理..... 54
術中管理..... 26, 48	小舌症..... 36	食の安全性と機能性..... 16
ジュネーブ宣言..... 2	小帯の異常..... 41	食の機能と口腔保健..... 16
腫瘍..... 8, 20, 21, 52	情緒・社会性..... 19	食品の影響..... 4
腫瘍・腫瘍類似疾患に対する治療..... 42	情動の発達..... 4	除細動..... 7
主要な疾患と障害の病因・病態..... 8	消毒..... 9	所属リンパ節..... 6, 41
主要な症候..... 5	消毒・滅菌と感染対策..... 9	触覚の異常..... 5
腫瘍の概念..... 20	消毒・滅菌法..... 9	ショック..... 5, 8, 22
腫瘍の組織学的構造..... 20	消毒と滅菌..... 26	所得..... 11
腫瘍の発育様式..... 20	消毒薬..... 27	処方箋..... 3
腫瘍発生の病因..... 20	小児..... 10, 48	徐脈..... 5, 22
腫瘍類似疾患..... 8, 42, 45, 52, 53	小児に対する一次救命処置..... 26	シリコンゴム..... 29
種類..... 9	小児に対する二次救命処置..... 26	自立..... 11
種類・特性..... 8	小児の歯周病..... 40	自律訓練法..... 28
循環器系..... 4, 17	小児の歯髄・根尖性歯周組織疾患..... 39	ジルコニア..... 30
循環器疾患..... 53	小児の生理的特徴..... 4	歯齢..... 4
循環障害..... 8, 20	小児の治療..... 26	歯列..... 4, 18, 22
常温重合..... 30	小児の歯の外傷の予防..... 36	歯列・咬合異常の要因..... 36
常温重合型アクリルレジン..... 30	小児の歯の硬組織疾患..... 39	歯列・咬合異常の予防..... 36
消化..... 4	小児への対応..... 23	歯列・咬合検査..... 24
障害..... 11, 26	小児保健..... 15	歯列・咬合状態の診察..... 6
障害者と社会..... 16	上皮真珠..... 36	歯列・咬合の症候..... 5
障害者の歯科保健と医療・福祉..... 16	上皮組織..... 4	歯列・咬合の成長発育..... 19
障害者の保健と医療・福祉..... 16	静脈..... 9	歯列・咬合の変化..... 5
障害者への対応..... 23	静脈確保..... 7	歯列弓の形態・大きさ..... 6
障害者保健福祉..... 16	静脈内鎮静法..... 9	心因性疼痛..... 20
障害の概念..... 23	静脈麻酔法..... 9	心因性病態..... 8
障害の概念と対応..... 14	静脈麻酔薬..... 26	腎炎..... 10
障害の分類..... 23	常用薬..... 5	侵害受容性疼痛..... 20
生化学検査..... 7, 24	初期齲蝕の診断..... 34	心機能検査..... 25
消化管機能検査..... 25	初期救急..... 7	腎機能検査..... 25
消化器..... 22	初期固定..... 50	心筋梗塞..... 10
消化器系..... 4, 17	初期発生..... 19	神経..... 22
消化器疾患..... 48	食育基本法..... 16	神経・運動器疾患..... 48
消化器障害..... 10	食育と食の支援..... 34	神経筋疾患の摂食・嚥下障害..... 6
上顎・下顎歯肉癌..... 41	職業性歯科疾患..... 15	神経系..... 4, 5, 17
上顎顎外固定装置..... 37	食形態の管理..... 54	神経疾患..... 8, 45, 53
上顎骨・下顎骨の成長発育の特徴..... 4	食事..... 54	神経疾患の治療..... 45
上顎骨骨折..... 43	食事介助..... 54	神経障害性疼痛..... 20
上顎前方牽引装置..... 37	食事指導..... 54	神経頭蓋..... 4
上顎洞底挙手術..... 43	食事摂取基準..... 16, 34	神経線維腫症..... 43, 46
上顎洞癌..... 41	食事バランスガイド..... 34	神経組織..... 4, 17
	食思(欲)不振..... 5, 22	人工呼吸..... 7
		人工歯..... 30, 50

人口統計.....	16
診察.....	6, 23, 37, 49
診察時の体位.....	6
診察総論.....	23
診察と診断.....	36
心疾患.....	23
腎障害.....	10
心身医学療法.....	28
心身症.....	47
新生児期.....	4, 19
新生児歯.....	36
心臓.....	22
心臓・脈管疾患.....	48
腎臓疾患.....	53
靱帯.....	4
身体所見.....	54
身体成長.....	4
身体成長と精神発達の評価法...	4
身体的・社会的・心理的要因と	
保存修復.....	39
身体的特徴.....	23
人体の正常構造・機能.....	4
人体の成長発育.....	4
人体の発生・成長・発達・加齢..	
.....	4, 19
身体表現性障害.....	47
診断.....	7, 36, 37, 49
診断書.....	3
シンチグラフィ.....	24
人的支援.....	11
心内膜炎.....	10
審美障害.....	49
審美的要件.....	49
心不全.....	10
腎不全.....	23, 53
心理.....	7, 22, 23
診療記録と診療情報.....	3
診療支援システム.....	24
診療情報.....	3
診療情報の開示.....	3
診療に関する記録.....	3
診療用器械.....	29
診療録.....	3
診療録開示.....	3
診療録の管理・保存.....	3

## す

脾機能検査.....	25
水痘・带状疱疹.....	46
睡眠時無呼吸症候群.....	49, 51
睡眠障害.....	5, 22
頭蓋顔面異骨症.....	35, 46
頭蓋を構成する骨.....	4
スクリーニング.....	4, 15, 54
スクリュー固定.....	50
頭重感.....	5, 22
スタンダードプレコーション...	3
頭痛.....	5, 22
スティッキーワックス.....	29
ステロイド性抗炎症薬.....	27
ステンレス鋼.....	30
ストレス.....	3
スポーツによる歯・口腔の外傷	
予防.....	34
スライディングプレート.....	37

## せ

生活習慣.....	5
生活習慣指導.....	34
生活習慣病.....	3
生活の質.....	2
成形修復用材料.....	29
清潔操作.....	9
性差.....	7, 9
静止性骨空洞.....	44
正常咬合の概念と成立の条件..	37
生殖.....	19
生殖器系.....	4, 17
精神・神経疾患.....	8
精神・心身医学的疾患.....	48, 53
精神機能.....	22
成人歯科保健.....	15
精神障害と歯科保健.....	16
精神状態.....	6
精神鎮静法.....	9
精神的健康.....	15, 16
成人に対する一次救命処置.....	26
成人に対する二次救命処置.....	26
成人の口腔保健管理.....	15
成人の歯周病.....	40

成人の歯髄・根尖性歯周組織疾患	
.....	39
成人の治療.....	26
成人の歯の硬組織疾患.....	39
成人保健.....	2, 15
精神保健福祉.....	15
精神療法.....	28
生体機能検査.....	25
生体構成成分の構造・機能.....	4
生体材料の科学.....	29
生体反応.....	37
生体を構成する基本物質.....	17
正中歯.....	35
正中菱形舌炎.....	43
成長・発達の評価.....	19
成長発育・発達の特徴.....	4
生物学的固定.....	50
生物学的性質と生体安全性.....	29
生物学的な個体の死.....	21
生物学的要件.....	49
生命倫理.....	2
生理的年齢.....	4
生理的変動.....	7
世界の保健・医療の問題と方向性	
.....	14
セカンドオピニオン.....	2
咳.....	5, 22
赤沈.....	7
セクショナルアーチ.....	37
舌.....	4, 18, 19, 22
舌・口腔粘膜検査.....	24
舌・口底の異常.....	41
舌咽神経.....	4
舌咽神経痛.....	45
舌運動・舌圧検査.....	24
切開.....	9
石灰化機構.....	19
切開排膿.....	26
切開法.....	26
舌下神経.....	4
舌下神経麻痺.....	45
舌癌.....	41
赤血球系疾患.....	47
赤血球増多症.....	47
石膏系鋳型材.....	30
切削・研削・研磨.....	29
切削・研削・研磨用材料.....	10
切削・研削工具.....	29

## そ

造影.....	7
造影検査.....	24
騒音・振動と健康.....	16
臓器移植患者.....	10
臓器移植に関連した口腔症状... 6	
早期萌出乳歯.....	36
双極性障害.....	10
総頸動脈.....	4
象牙質・歯髄複合体.....	18
象牙質・歯髄保護法.....	39
象牙質異形成症.....	35
象牙質形成不全症.....	35
象牙質知覚過敏症.....	39
象牙質知覚過敏症の治療.....	39
象牙質被着面処理.....	30
造血器.....	22
創傷治癒.....	20
創傷の処置.....	9
創傷の治療.....	26
双生歯.....	35
装着.....	49, 50
側頸嚢胞.....	41
組織.....	4, 17
組織活動.....	15
組織再生用材料.....	31
組織診.....	7
組織付着療法.....	40
咀嚼.....	4, 18, 19
咀嚼機能.....	10
咀嚼機能検査.....	24
咀嚼障害.....	22, 27
塑性加工と焼きなまし.....	30
その他の検査.....	25
その他の口腔・顎顔面に異常を 来す症候群.....	46
その他の高齢者に高頻度に みられる全身疾患・症状....	53
その他の疾患の予防・管理....	34
その他の先天異常・遺伝性疾患	35
その他の治療法.....	28
損傷.....	8, 21
損傷に対する治療....	41, 44, 52

切歯管嚢胞.....	44
切歯結節.....	36
摂食・嚥下機能.....	10, 54
摂食・嚥下機能および音声言語 機能改善のための補助装置..	54
摂食・嚥下機能の加齢変化....	54
摂食・嚥下障害.....	
.....	5, 8, 22, 27, 49, 54
摂食・嚥下障害とリハビリテー ション.....	23
摂食・嚥下障害の主な原因....	54
摂食・嚥下障害の対応.....	54
摂食・嚥下障害の病因・病態..	54
摂食・嚥下障害の評価・検査..	54
摂食・嚥下障害のリハビリテー ション.....	27
摂食・嚥下に関する諸因子..	54
摂食嚥下補助床による治療....	51
接触性口唇炎.....	43
切除療法.....	40
舌神経麻痺.....	45
舌側弧線装置.....	37
接着材.....	31
接着性モノマー.....	29, 31
舌痛症.....	45, 53
舌動脈.....	4
舌の異常.....	36
セメント固定.....	50
セメント質.....	18
セラミック材料.....	29
セラミックスの成形加工.....	30
セラミックスの成形技術・機器	30
セラミックス被着面処理.....	31
線維骨性病変.....	44
前癌状態.....	20, 42, 52
前癌病変.....	20, 42, 52
線材料.....	31
穿刺.....	9, 26
穿刺液.....	7
前歯部の被蓋.....	6
洗浄.....	9
染色体.....	4
染色体・遺伝子・発生の異常..	20
染色体・遺伝子検査.....	25
前処置.....	49
全身管理に留意すべき疾患・対象 .....	10

全身管理に留意すべき全身疾患 ・状態.....	48
全身倦怠感.....	5, 22
全身作用.....	9
全身疾患の増悪.....	48
全身疾患を有する患者.....	10
全身疾患を有する者の歯周病治療 .....	40
全身疾患を有する者の歯内療法	40
全身疾患を有する者への対応..	23
全身状態の評価.....	26
全身性エリテマトーデス..	42, 47
全身性炎症(性)反応症候群....	41
全身的応用.....	3
全身的偶発症.....	26
全身的偶発症の原因推定.....	7
全身的疾患による主な口腔症状..	6
全身的症候.....	22
全身の外観.....	6
全身の構造・機能.....	4
全身の循環障害.....	20
全身の症候.....	5
全身の診察.....	6, 23
全身への影響.....	21
全身麻酔.....	9
全身麻酔法.....	26
腺性歯原性嚢胞.....	44
前舌腺嚢胞.....	36
先天異常.....	8
先天異常・後天異常.....	21
先天異常と変形に対する治療..	41
先天異常と変形を主徴とする疾 患.....	41
先天歯.....	36
先天性外胚葉異形成症.....	35
先天性外胚葉形成不全.....	35
先天性下唇瘻・口角瘻.....	36
先天性好中球機能不全症.....	35
先天性色素失調症.....	35
先天性疾患を伴う不正咬合の治療 .....	38
先天性鼻咽腔閉鎖不全.....	41
先天性表皮水疱症.....	35
尖頭合指症.....	35, 46
全部床義歯による治療.....	50
全部性無歯症.....	35
喘鳴.....	5, 22



## た

ターミナルケア	52
体位	6
第一次・第二次・第三次予防	34
第一第二鰓弓症候群	35, 46
退院時要約	3
体温	6
胎芽期	19
大気・水と健康	16
大規模災害	14
体型	6
胎児期	19
第七咬頭	36
代謝	9, 22
代謝改善薬	28
代謝関連物質	7
代謝障害	8, 20, 47
代謝性疾患	48
体重減少・増加	5, 22
帯状疱疹	42, 52
対症療法	8, 26
体性感覚	6
苔癬様病変	6
大腸癌	53
態度	5
大理石骨病	46
第六咬頭	36
タウロドント	36
唾液	10, 18
唾液・唾液腺検査	24
唾液管炎	45
唾液腺	4, 6, 18, 19, 22
唾液腺炎	45
唾液腺疾患	8, 34, 44, 53
唾液腺疾患の治療	45, 53
唾液腺の検査	7
唾液腺の疾患	21
唾液腺の症候	5
唾液腺の変化	5
唾液の作用	4
唾液の種類	4
唾液分泌	18, 19
唾液瘻	45
多形〔滲出性〕紅斑	6, 42
多骨性線維性骨異形成症	43, 46
多職種連携	10, 23, 27
打診	6

補体	7
唾石症	45
他臓器からの転移腫瘍	52
他臓器癌の口腔症状	6
脱臼	39
脱水	5, 22
他の補綴歯科治療法との違いに についての説明	50
段階的摂食訓練	54
タングクリブ	37
単純性骨嚢胞	44
単純疱疹	42
蛋白	7

## ち

チアノーゼ	5, 22
地域	8
地域医療	14
地域医療でのチームワーク	10
地域支援事業	2, 15
地域歯科保健活動での各職種の 連携に関する制度	2
地域保健	2, 14
地域保健活動の進め方	14
地域保健体制	2
地域保健法	2
地域連携クリニカルパス	11
チーム医療	9, 14
チーム歯科医療	10
チームの調整技能	11
チームワーク形成	11
知覚障害と運動障害	22
地球環境の変化・健康影響	16
治験審査委員会<IRB>	28
智歯周囲炎	41
地図状舌	36, 43
チタン	30
チタン合金	30
窒息・誤飲・誤嚥に対する対応	26
注意欠陥多動性障害<ADHD>	23
注射法の種類	9
中心結節	36
中枢・末梢神経系	17
中枢神経障害	10
中枢性神経麻痺	53
鑄造	49
鑄造欠陥	30

鑄造工程	30
鑄造精度	30
鑄造法の基本的術式	9
中毒性表皮壊死剥離症<TEN>	42
中毒	20
超音波検査	24
超音波療法	28
聴診	6
直接訓練	54
直接作用	9
治療	3
治療環境	9
治療計画	26, 37
治療計画の提示	26
治療計画の立案	26, 49
治療計画を左右する因子	26
治療経過の評価	7
治療係数	10
治療時の患者管理	42
治療前後の管理	52
治療中の管理	38
治療に伴う医原病	21
治療の基礎	26
治療の基礎・基本手技	8
治療の適応・選択	8
治療の場	8
治療の評価	26
治療への参加	5
治療方針	36
治療法の選択	49
チンキャップ	37
鎮痛薬	27

## つ

痛風性顎関節炎	45
---------	----

## て

手足口病	36, 42, 46
低位乳歯	36
低フォスファターゼ症	35
適応	8
適用方法と剤形	27
デジタル画像システム	24
鉄欠乏性貧血	43, 47, 52
電解質	7
てんかん	10

電気..... 28  
転倒・骨折..... 53  
天疱瘡..... 42, 47  
電離放射線..... 24

## と

糖..... 7  
同意書..... 3  
トゥースポジショナー..... 37  
動悸..... 5, 22  
動機付け..... 5  
統計解析..... 16  
頭頸部の筋..... 18  
頭頸部の構造..... 18  
頭頸部の骨..... 18  
頭頸部の神経..... 4, 18  
頭頸部の動脈..... 4  
頭頸部の内臓..... 18  
頭頸部の脈管..... 18  
凍結療法..... 28  
動向..... 15, 16  
統合失調症..... 10  
陶材..... 30  
陶材と金属の接合..... 30  
陶材の築盛・焼成..... 30  
陶材焼付用合金..... 30  
糖質..... 7  
疼痛..... 5, 20  
疼痛とQOL..... 27  
疼痛の管理..... 26  
動的咬合誘導..... 37  
糖尿病..... 10, 23, 47, 53  
糖尿病による口腔乾燥・歯周病の増悪..... 6  
頭部の筋..... 4  
トータルヘルスプロモーションプラン<THP>..... 2  
特殊な装置による治療..... 51  
特定健康診査..... 2, 15  
特定保健指導..... 2, 15  
徒手..... 28  
徒手筋力テスト..... 25  
特発性血小板減少性紫斑病<ITP>..... 47  
都道府県..... 14  
トランスパラタルアーチ..... 37  
取扱法..... 8

ドレナージ..... 9, 26

## な

内頸動脈..... 4  
内視鏡検査..... 24  
内歯瘻..... 44  
内臓頭蓋..... 4  
内部吸収..... 39  
内部吸収歯・歯根外部吸収歯の治療..... 40  
内分泌..... 22  
内分泌・代謝機能検査..... 25  
内分泌疾患..... 48  
内分泌障害..... 47  
内分泌系..... 4, 17  
流し込み成形..... 30  
軟化熱処理と硬化熱処理..... 30  
軟口蓋麻痺..... 45  
軟骨内骨化..... 19  
軟骨無形成症..... 35  
軟質裏装材..... 30  
軟組織..... 22  
軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患..... 41, 52  
軟組織に発生する嚢胞..... 41  
軟組織の炎症..... 41, 52  
軟組織の損傷..... 41, 52  
軟組織の肉腫..... 41

## に

ニーズとダイヤモンド..... 2  
肉芽腫性炎..... 41  
肉芽腫性炎の種類・特徴..... 20  
肉芽腫性口唇炎..... 43  
肉腫..... 52  
二次固定..... 50  
二重盲検法..... 28  
日常生活動作<ADL>..... 15  
日常生活動作<ADL>の評価..... 10  
入院..... 8  
入院診療計画書..... 3  
乳歯・幼若永久歯の外傷の処置と経過..... 36  
乳歯・幼弱永久歯の歯冠修復法..... 39  
乳歯齲蝕..... 39  
乳児期..... 4, 19

乳児に対する一次救命処置..... 26  
乳歯の根尖性歯周組織疾患..... 39  
乳歯の歯髄疾患..... 39  
乳歯列期・混合歯列期の不正咬合の治療..... 37  
乳幼児..... 48  
乳幼児・高齢者・妊産婦・障害者・要介護者の治療..... 9  
乳幼児歯科健康診査..... 15  
乳幼児の歯科保健..... 15  
ニュルンベルグ綱領..... 2  
尿..... 7  
妊産婦..... 2  
妊産婦・乳幼児の保健指導..... 2  
妊産婦の歯科保健..... 15  
妊娠..... 48  
認知機能..... 19  
認知行動療法..... 28  
認知症..... 10, 53  
認知症患者の口腔症状..... 6  
妊婦..... 10  
妊婦・授乳婦への対応..... 23

## ね

猫鳴き症候群..... 35  
熱感..... 5  
熱処理..... 49  
粘液嚢胞..... 36, 41, 45  
粘液瘤..... 36, 45  
粘膜・皮膚・眼症候群..... 42  
粘膜の感覚..... 18  
年齢..... 9  
年齢差..... 7

## の

脳血管疾患..... 6, 23, 53  
脳梗塞..... 10, 53  
脳頭蓋の成長発育..... 19  
脳内出血..... 10  
脳波検査..... 25  
嚢胞..... 8, 21  
嚢胞に対する治療..... 41, 44  
膿瘍の処置..... 9  
ノーマライゼーション..... 2

## は

歯	22
歯・口腔・顎・顔面の発育を	
障害する先天異常	35
歯・口腔・顎・顔面・頭蓋疾患	
の病因・病態	21
歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の	
成長発育	19
歯・口腔・顎・顔面の疾患と	
障害の概念	8
歯・口腔・顎・顔面の症候	22
歯・口腔・顎・顔面の症候の	
とらえ方	5
歯・口腔・顎・顔面の発生	19
歯・口腔・顎・顔面の発生・成	
長発育	4
歯・口腔・顎疾患	36
歯・口腔の外傷	34
歯・歯周組織・口腔・顎・顔面	
の検査	7
歯・歯周組織が受ける力	4
歯・歯周組織の構造・組成・機能	4
歯・歯周組織の構造と機能	18
歯・歯周組織の診察	6
歯・歯肉の着色・変色	34
歯・歯列の機能	18
歯・歯列の成長発育	4
肺炎	10, 53
バイオネーター	37
肺癌	53
廃棄物処理	16
敗血症	41, 52
賠償	3
排泄	9
バイタルサイン	6, 7
梅毒	47
廃用症候群	53
白板症	42
麻疹	46
歯式	4, 18
破傷風	47
破折	5
歯種の鑑別	4
発育異常	8, 44
発育期の特徴	4
発育区分	4

発育時期	4
発音	18
発音障害	22
発音障害	27
発音障害のリハビリテーション	27
白血球系疾患	47
白血病	41, 47, 52
発語・構音障害	49
抜歯	9, 26
抜歯後出血	6
抜歯・非抜歯の判定	37
発声	4, 6
発達障害	23
発達スクリーニング検査	4
パッチテスト	25
発熱	5, 22
歯の異常	35
歯の異所萌出	36
歯の外傷	36, 39
歯の亀裂	39
歯の脱臼	43
歯の破折	43
歯の形成・萌出	19
歯の形態	4, 18
歯の検査	7
歯の構造・組成	4
歯の硬組織疾患	8, 21, 52
歯の硬組織疾患の治療	9, 39
歯の硬組織疾患への対応	52
歯の硬組織の検査	24
歯の症候	5
歯の所見	6
歯の切削	9
歯の先天欠如	35
歯の喪失に伴う口腔・顎・顔面	
の変化	21
歯の喪失に伴う変化	5
歯の損耗	34, 39
歯の脱落・交換時期	4
歯の着色・唾液分泌量減少・唾液	
分泌量増加・味覚異常・顎骨壊	
死・抗腫瘍薬による口内炎	6
歯の発生	4
歯の漂白	39
歯のフッ素症	36
歯の変化	4
歯の変色・着色	39, 52
歯の萌出遅延	36

パノラマエックス線	7, 24
歯への沈着物	15
パラフィンワックス	29
バリアフリー	2
針刺し事故	3
針反応テスト	25
パルスオキシメトリ	25
播種性血管内凝固症候群	47
バンド	31

## ひ

鼻咽腔閉鎖機能検査	24
非齶蝕性硬組織疾患	39
非齶蝕性硬組織疾患の特徴	52
皮下	9
日帰り全身麻酔	26
光重合	30
非感染性顎関節炎	45
非言語的コミュニケーション	5
鼻口蓋管嚢胞	44
鼻骨骨折	43
非歯源性悪性腫瘍	44
非歯源性良性腫瘍	41, 44
鼻槽嚢胞	41
非ステロイド性抗炎症薬	27
微生物学検査	7, 25
肥大	20
ビタミン	28
ビタミン欠乏による歯肉出血	6
非定型顔面痛・非歯源性歯痛	45
ヒト免疫不全ウイルス感染症	46
皮内	9
皮内テスト	25
泌尿器・生殖器疾患	48
泌尿器系	4, 17
被曝	3
皮膚	6, 22
皮膚・粘膜の体性感覚	4
皮膚検査	25
皮膚障害	10
皮膚症状	8
皮膚知覚検査	25
ヒポクラテスの誓い	2
非麻痺性鎮痛薬	27
ヒヤリハット	3
病因論	20
評価	3, 23

病原微生物.....	20
標準予防策.....	3
表情筋・咀嚼筋の種類.....	4
病態.....	49
病態・疾患の鑑別.....	7
費用対効果.....	7
病的増殖.....	8
表皮水疱症.....	42
病理検査.....	7
病理組織学検査.....	25
病歴聴取.....	5
病歴との関連.....	7
貧血.....	5, 10, 22, 47
貧血による舌炎.....	6
頻脈.....	5, 22

## ふ

不安障害.....	47
風疹.....	46
フェイスボウトランスファー..	50
フェニトイン歯肉増殖症.....	42
複合材料.....	29
副甲状腺機能亢進症.....	47
複合性局所疼痛症候群.....	45
副作用・有害事象への対応.....	3
福祉.....	3, 14
福祉施設.....	14
福祉用具.....	11
副腎機能亢進症.....	10
副腎機能低下症.....	10
副神経.....	4
覆髄材.....	29
副鼻腔.....	18
含窒素成分.....	7
服薬計画.....	27
服薬指導.....	27
浮腫.....	5, 22
不正咬合.....	8
不正咬合進行の抑制.....	34
不正咬合による障害.....	37
不正咬合の疫学要因.....	16
不正咬合の原因.....	37
不正咬合の種類.....	37
不正咬合の診断.....	37
不正咬合の治療.....	9, 37
不正咬合の病因・病態.....	37
不正咬合の分類.....	37

不正咬合の予防・管理.....	34
不正咬合発生・進行の要因.....	34
不正咬合発生の予防.....	34
不整脈.....	5, 22
フッ化物応用.....	3
フッ化物の応用法.....	34
物的支援.....	11
物理的性質.....	29
部分床義歯による治療.....	49
部分性無菌症.....	35
ブラーク.....	3, 4, 18
プライバシー・羞恥心・苦痛への配慮.....	6
プライバシーの保護.....	5
プライマリーヘルスケア.....	2
プライマリケア.....	14
ブラキシズム.....	49
ブラケット.....	31
プラセボ効果.....	9
ブリックテスト.....	25
ブリッジの設計.....	49
フレームワークの製作.....	50
プロトスタイリッド.....	36
プロビジョナルレストレーション.....	49, 51
プロフェッショナルケア.....	51
分布.....	9

## へ

閉塞性の循環障害.....	20
ペインコントロール.....	27
へき地医療.....	14
ヘッドギア.....	37
ヘルシンキ宣言.....	2
ヘルスプロモーション.....	2, 14
ヘルパンギーナ.....	36, 42
辺縁歯周組織.....	22
辺縁歯周組織の疾患.....	21
辺縁歯周組織検査.....	7, 24
変形性(顎)関節症.....	46, 53
変色.....	5
変性.....	20

## ほ

蜂窩織炎.....	41, 52
縫合.....	9

縫合糸.....	31
縫合法.....	26
報告義務.....	3
放射性同位元素.....	24
放射線障害.....	20, 45, 53
放射線性骨壊死.....	44
放射線治療.....	27
放射線治療患者の口腔管理....	27
放射線治療の生物学的・物理学の基礎.....	27
放射線と健康.....	16
放射線の遺伝的影響.....	20
放射線の影響.....	8
放射線の確率的・確定的影響..	20
放射線の身体的影響.....	20
放射線の単位・測定.....	24
放射線の防護・管理.....	24
放射線骨壊死.....	53
放射線療法.....	42
萌出時期・順序.....	4
萌出嚢胞.....	36, 41
疱疹性口内炎.....	42
疱疹性歯肉口内炎.....	36
放線菌症.....	41
包帯.....	31
訪問歯科診療.....	54
ホームケア.....	51
保険.....	36
保健・医療・福祉・介護... 2,	14
保健・医療・福祉・介護・教育の連携.....	11
保健衛生法規.....	14
保健教育・保健管理の概要.....	2
保健指導.....	3, 15, 34
保健所の歯科保健業務.....	14
保健統計.....	16
歩行.....	6
母子歯科保健.....	15
母子保健.....	2, 15
補修修復.....	39
補償.....	3
母性保健.....	15
保存療法.....	8
保存療法と外科療法.....	26
保定.....	38
補綴・歯周治療との併用.....	38
補綴歯科治療.....	54
補綴装置の印象採得.....	51

補綴装置の管理.....	54
補綴装置の製作.....	51
補綴装置の清掃状態.....	10
補綴装置の設計.....	50
補綴装置の装着.....	51
補綴装置の適合状態.....	10
補綴装置の破損とその対応	51, 54
補綴装置の要件.....	49
補綴前外科手術.....	43
ポリエーテルゴム.....	29
ポリカーボネート.....	30
ポリカルボキシレートセメント	31
ポリサルファイドゴム.....	29
ポリスルフォン.....	30
ホルモン.....	7

## ま

マイクロモータ.....	29
埋伏歯.....	36
埋没.....	49, 50
マウスガード.....	34
前処置.....	49
膜内骨化.....	19
麻酔.....	9, 26
麻酔管理.....	48
麻酔補助薬.....	27
増生.....	20
末期がん患者の管理.....	42
マッサージ.....	28
摩耗症.....	34, 39
麻薬.....	28
麻薬性・非麻薬性鎮痛薬.....	27
マルチブラケット装置.....	37
慢性・急性腎不全.....	10
慢性炎症.....	20
慢性再発性アフタ.....	42
慢性閉塞性肺疾患.....	10, 53

## み

味覚.....	4, 6, 10, 18, 19
味覚異常.....	53
味覚検査.....	7, 24
味覚障害.....	22, 34
水.....	28
身だしなみ.....	5
診診連携.....	10

身元確認.....	14
脈管系.....	4, 17
脈拍.....	6
脈瘤性骨嚢胞.....	44
民事裁判.....	3

## む

無顆粒球症.....	47
無作為化.....	28
無歯症.....	35

## め

迷走神経.....	4
メンテナンス.....	40, 51
メタボリックシンドローム.....	2
メトヘモグロビン血症.....	48
目の保護.....	3
めまい.....	5, 22
メラニン色素沈着症.....	42
免疫.....	4, 17, 22
免疫異常.....	8, 45, 47
免疫応答とその調節.....	17
免疫学検査.....	25
免疫系臓器.....	17
免疫血清学検査.....	7
免疫疾患.....	20, 48
免疫担当細胞.....	17
免疫不全.....	10, 20, 47
免疫抑制.....	6
免疫療法.....	28, 42
面接.....	5

## も

目標.....	7
模型.....	3
模型材.....	10
模型用材料.....	29
モデリングコンパウンド.....	29

## や

薬剤関連顎骨壊死・壊疽・顎骨	
骨髓炎.....	44, 53
薬剤関連顎骨疾患.....	44

薬事衛生法規.....	14
薬事法.....	2
薬疹.....	48
薬物・放射線による有害事象...	8
薬物アレルギー.....	10
薬物作用の種類.....	9
薬物性口内炎.....	42
薬物適用の注意.....	27
薬物動態.....	27
薬物投与上の注意.....	10
薬物の血中濃度モニタリング..	10
薬物の効果に影響する因子.....	9
薬物の作用部位.....	9
薬物の作用部位・作用機序....	27
薬物の体内動態.....	9
薬物の適用方法.....	9
薬物の反復投与.....	10
薬物の副作用.....	48
薬物の副作用・有害作用.....	10
薬物の副作用・有害作用・薬物	
相互作用.....	27
薬物の併用.....	10
薬物の保管・管理.....	10, 28
薬物の有害事象による口腔症状.	6
薬物の連用.....	27
薬物療法.....	9, 27
薬効に影響を及ぼす因子.....	27
病診連携.....	10

## ゆ

有機材料.....	29
有効性.....	7
ユーティリティーワックス....	29
誘発痛.....	5
輸液療法.....	7, 28
床用レジン.....	31
輸血.....	7
輸血療法.....	28
癒合歯.....	35
癒着歯.....	35

## よ

要介護高齢者.....	15, 23, 53
幼児期.....	4, 19
幼若永久歯齲蝕.....	39

幼若永久歯の根尖性歯周組織疾患	39
幼若永久歯の歯髄疾患	39
溶接	30
用量と反応	27
用量と薬理作用	10
予防衛生法規	14
予防給付	2
予防填塞用材料	29
予防填塞材	10, 29
予防と健康管理・増進	2

## ら

ライフステージと齲蝕	34
ライフステージと口腔機能育成	
・増進指導	34
ライフステージと歯周病	34
ライフステージと食の支援	34
ラップアラウンドリテーナー	37

## り

リーダーシップ	11
リウマチ性顎関節炎	45, 53
理学療法	28

力学的要件	49
リコール	51
リスクファクター	21
リスクマネジメント	3
リスボン宣言	2
リップバンパー	37
リハビリテーション	2, 27, 54
リモデリング	19
留意すべき疾患	23
流涎症	45
良性腫瘍	20, 45, 52, 53
リンガルアーチ	37
リン酸亜鉛セメント	31
リン酸塩系鋳型材	30
臨床研究	2
臨床試験	28
臨床試験・治験と倫理	2
臨床判断の基本	7
リンパ上皮性嚢胞	41, 45
リンパ節	5, 22

## る

類天疱瘡	42, 47
類皮嚢胞	41
類表皮嚢胞	41

## れ

レーザー装置	29
レーザー療法	28
レジン	29
レジン系模型材	29
レジンセメント	31
レジンの成形技術・機器	30
レディキャストイングワックス	29

## ろ

瘻	5
老化	19
蠟義歯の試適	50
ろう材	30
ろう付け	30, 49
労働安全衛生管理	15
労働者の健康管理	2
濾胞性歯嚢胞	44

## わ

矮小歯	36
ワイヤー	31
ワックスパターン形成	49



## 歯科医師国家試験制度改善検討部会報告書

平成 24 年 4 月 18 日



## I はじめに

歯科医師国家試験は、日本の歯科医療の質を担保するうえで極めて重要な試験であり、昭和22年に第1回が実施されて以降、歯科保健・歯科医療及び歯学教育の変化に合わせて概ね4年に1度改善を行い、質の向上に努めてきた。

直近では、「歯科医師国家試験制度改善検討部会報告書（平成19年）」を踏まえ、平成22年（第103回）歯科医師国家試験から、受験者の知識・技能をより適切に評価することを目的として、必修問題を増加し、新しい形式の問題を採用する等の改善がなされた。

歯科保健・歯科医療を取り巻く環境は大きな変革を迎えており、平成21年7月には「歯科保健と食育の在り方に関する検討会報告書」で、歯科保健分野からの食育の推進について提言がなされ、平成23年8月には、歯科口腔保健に関する施策を総合的に推進することを理念とした「歯科口腔保健の推進に関する法律」が制定される等、歯・口腔の健康の重要性がますます認知されるようになり、歯科医師はこれまで以上に重要な役割を果たすことが期待されている。

こうした状況の中、医道審議会歯科医師分科会歯科医師国家試験制度改善検討部会が平成23年8月に設置された。ワーキンググループを含め計7回の会議で現行の歯科医師国家試験について議論を重ね、今般、基本的な方向性についての改善事項を取りまとめたので、ここに報告する。

## II 歯科医師国家試験問題について

### （1）出題方法等

#### ＜出題数＞

現行の歯科医師国家試験の出題総数は365題で、各領域の出題割合をブループリント（歯科医師国家試験設計表）で明示している。

出題総数については現行の数を維持し、必修問題についても合格基準の安定性を確保し、問題の質を担保する観点から現行どおりとする。

#### ＜出題形式＞

平成22年（第103回）試験から、従来のAタイプ（5つの選択肢から1つの正解肢を選ぶ形式）とX2タイプ（5つの選択肢から2つの正解肢を選ぶ形式）に加え、XXタイプ（正解肢数を指定せずに正解肢を選ぶ形式）が出題されるようになった。

また、平成24年（第105回）試験からLAタイプ（6つ以上の選択肢から1つの正解肢を選ぶ形式）と計算問題（数値を解答させる非選択形式）が採用されている。

××タイプについては、正しい知識を有しているかをよりの確に問うことができるという意見がある一方で、受験者に必要以上の過剰な負担を与えるという指摘もあることから、試験委員会で問題の質や出題数等について十分に検討する。また、L Aタイプと計算問題についても問題の質を考慮した出題となるよう留意すべきである。

#### <臨床実地問題>

臨床実地問題は、実技試験に代わって臨床能力を評価する目的で出題されている。

近年、歯科医師国家試験に向けた講義に費やす時間の増加等により、臨床実習が十分に実施されておらず、臨床研修<sup>\*1</sup>開始時における技術能力にばらつきがあるとの指摘があることから、「歯学教育モデル・コア・カリキュラム（平成22年度版）」<sup>\*2</sup>の改訂にあたって「臨床実習の充実」が単独の目標として強調された。

歯科医師国家試験における臨床実地問題においても、机上のいわゆる受験テクニックではなく、参加型の臨床実習で得た能力をより適切に評価できる出題を推進し、タクソノミー<sup>\*3</sup>のⅢ型からの出題を増加すべきである。

#### <基礎領域の位置付け>

共用試験との将来的な役割分担を見据え、歯科医師国家試験では、臨床と関連を持った基礎領域の出題がされるよう工夫すべきである。

### (2) 出題基準

#### <社会的課題への対応>

時代の要請に応え得る歯科医師を確保できるよう、下記の出題について更なる充実を図り、資質向上を促進していく必要がある。

- ・ 歯科医師として必要な、高齢者や全身疾患を持つ者等への対応に関する出題（全身疾患、検査及び多職種連携等に関する出題）
- ・ 歯科口腔保健の推進に関する法律の制定等を考慮した歯科疾患の予防管理に関する出題
- ・ 医療保険・介護保険等を含む現行の社会保障制度に関する出題
- ・ 歯科領域から推進する、口腔と全身疾患との関係に関する出題（禁煙指導と支援、食育と食の支援等）
- ・ 救急災害時の歯科保健対策・法歯学に関する出題

その他、社会問題化している「小児虐待」、「医療安全・感染対策・薬害等」及び「放射線の人体に対する影響等」については継続して出題する。

また、平成２２年版出題基準に新規導入された「診療に必要な医学英語」についても、医療のグローバル化の進展状況を踏まえ、引き続き出題する。

### （３）合格基準

#### ＜改善の方針＞

現在の合格基準は、必修問題、一般問題及び臨床実地問題の出題区分に応じた得点、禁忌肢選択数及び領域別基準点という複数の基準から構成されており、必修問題は絶対基準で、一般問題と臨床実地問題は各々平均点と標準偏差を用いた相対基準を用いて評価している。

相対基準での評価を採用するにあたっては、近年の歯科大学・歯学部入学状況の変化等を踏まえ、受験者の質の変動に左右されず、歯科医師として具有すべき知識・技能を有している者をより適切に評価できるよう改善すべきである。

#### ＜一般問題と臨床実地問題の評価方法＞

臨床実地問題は、一般問題に比べ臨床における問題解決能力をより必要とすることから、引き続き配点に重みを置く。

合格率の乱高下を防ぐ観点から、従来どおり相対基準による評価を行い、その基準を、歯科医師として必ず具有すべき知識・技能を有することを重視したものにする。

平成２２年（第１０３回）試験から、一般問題と臨床実地問題を包括して、出題基準で定める内容が近接した領域を統合した新しい合格基準が採用されているが、この基準には一定の合理性があり変更する理由がないことから、現行を維持する。

#### ＜必要最低点の設定＞

合格者の中でも学力格差が広がりつつあるという指摘や、バランスの取れた知識・技能を持った歯科医師が求められていること等から、歯科医師国家試験の領域を構成するグループ別に必ず得点しなければならない最低点を設定すべきである。なお、必要最低点の設定にあたっては、問題数や総得点等に配慮する必要がある。

#### <必修問題の評価方法>

必修問題は、歯科医師として必ず具有すべき基本的な最低限度の知識・臨床能力を有する者を識別する目的で出題されており、絶対基準での評価を継続する。

「必修の基本的事項」は、出題基準で小項目まで設定されているが、この項目に従った出題となるよう試験委員会で十分に精査し、一般問題との区別や必修問題としての妥当性に留意すべきである。

#### <禁忌肢の評価方法>

禁忌肢を含む問題を出題することについては、受験者に必要以上の緊張を与えているとの指摘がある一方で、受験者が安心・安全な歯科医療についての知識を習得するようになり、ひいては歯科医師に対する国民の信頼性が高まるという意見があることから、その是非について過去の試験結果等を参考に慎重な審議を行った。

その結果、禁忌肢は、患者に対して重大な障害を与える危険性のある誤った治療(診断)や法律に抵触する行為など誤った知識を持った受験者を識別するという一定の役割を果たしていること等から従来どおり運用することとした。なお、今後も、偶発的な要素で不合格とならないよう出題数や問題の質に配慮するとともに、禁忌肢としての妥当性を試験毎に検証する。

#### (4) 公募問題とプール制

良質で画一化されていない試験問題を一定数プールする目的で、平成14年度から、全国の歯科大学・歯学部に対し試験問題の公募を開始し、平成19年の歯科医師国家試験制度改善検討部会の報告書においても、問題の公募によるプール制の推進が提言された。しかし、試験問題と正解肢の開示請求に係る情報公開・個人情報審査会の答申<sup>\*4</sup>を受けて、問題冊子の持ち帰りを認めることとなったため、事実上プール制を推進することが困難となった。

また、良質な問題を収集することを目的として問題の公募を開始したものの、実際には出題に適するものが限られていることや、試験委員会での推敲に要する負担が大きいことなどから、現行制度を見直すべきとの声があったため、問題の公募システムやその活用方法について改善することとした。

## Ⅱ 歯科医師国家試験受験資格認定について

現行の制度では、一定の要件を満たす者については歯科医師国家試験の受験資格を認定しており、外国の歯科大学（歯学部）を卒業した者、または歯科医師免許を取得した者が、我が国で歯科医療を行うためには、歯科医師法の規定に基づき、厚生労働大臣の認定が必要とされており、基準に基づく書類審査によって、「本試験認定見込み」、「予備試験認定」または「不認定」のいずれかとなる。

医師国家試験受験資格認定においても歯科と同じ認定制度を採用しているが、近年、認定希望者が増加傾向にある等から、国際的動向を踏まえ、「本試験認定」の基準を見直すこととした。

歯科医師国家試験受験資格認定においては、現状、認定申請を行う者は少数であるが、我が国で歯科医療に貢献しようとする者に対し、適切に受験機会を付与する必要があるとともに、患者に安心・安全な歯科医療が提供できる体制を確保するためには、医師と同様の基準を設けることが適切である。

## Ⅲ 今後検討すべき課題

### （１）出題基準のあり方

出題基準の改定にあたっては、関係者の協力のもと、歯学教育モデル・コア・カリキュラム、共用試験及び卒後臨床研修の一連の整合性を考慮した総合的な検討が必要である。

### （２）試験問題の評価

現行においても、正解率や識別指数等を用いて問題の評価を行っているが、更に詳細なデータ（例えば、大学別・問題別正解率等）を分析することにより、全国の歯科大学・歯学部における出題内容の教授の程度を把握する等、より精密な問題の評価を行っていく必要がある。

### （３）多数回受験者への対応

卒業から年月が経過するほど合格率が低下する傾向がみられ、歯科医師としての資質が欠落していくことが憂慮されたとの指摘があることから、受験回数制限の必要性について議論されたが、多数回受験者において歯科医師としての資質が欠落しているという明確な根拠がないことから、現状においては、受験回数制限は導入しないこととした。

#### Ⅳ おわりに

本検討部会で提言された改善すべき事項については、医道審議会歯科医師分科会の意見及び出題基準の改定状況を踏まえつつ、平成２６年（第１０７回）試験からの運用を目指して改善すべきである。

また、本検討部会では、歯科医師の資質向上に向けた試験のあり方について様々な専門分野の委員により活発な議論が行われたが、試験に合格した者が歯科医師としての第一歩を自信を持って踏み出し、良質な歯科医療を提供できるよう今後も議論を継続し、定期的に改善を行っていく必要がある。

\* 1 臨床研修

診療に従事しようとする歯科医師に対する１年以上の研修。平成１８年４月に必修化された。

\* 2 歯学教育モデル・コア・カリキュラム（平成２２年版）

歯学生が卒業までに最低限履修すべき学習内容を定めたもの。平成１３年３月に策定され、平成１９年度・２２年度に改訂された。

\* 3 タクソノミー（taxonomy、評価領域分類）

教育目標毎に問題の解答に要する知的能力のレベルを分類したもので、一般に認知領域ではⅠ・Ⅱ・Ⅲ型に分類される。Ⅰ型は単純な知識の想起によって解答できる問題であり、Ⅱ型は与えられた情報を理解・解釈してその結果に基づいて解答する問題であり、Ⅲ型は設問文の状況を理解・解釈した上で、各選択肢の持つ意味を解釈して具体的な問題解決を求める問題である。

\* 4 試験問題と正解肢の開示請求に係る情報公開・個人情報審査会の答申

「行政機関の保有する情報の公開に関する法律」に基づき、平成１７年に出されたもの。「プール制を導入することにより本件試験問題を公にできないという必然性があるとは言えない」とされた。



医道審議会歯科医師分科会  
歯科医師国家試験制度改善検討部会委員

赤川 安正 広島大学大学院教授

和泉 雄一 東京医科歯科大学大学院教授

井上 美津子 昭和大学歯学部教授

植田 耕一郎 日本大学歯学部教授

◎ 江藤 一洋 日本歯科医学会会長

高田 健治 大阪大学歯学部教授

丹沢 秀樹 千葉大学大学院医学研究院教授

野上 康子 教育測定研究所研究開発部研究員

橋本 修二 藤田保健衛生大学医学部教授

○ 福田 仁一 九州歯科大学特任教授

三浦 宏子 国立保健医療科学院統括研究官

宮村 一弘 日本歯科医師会副会長

安井 利一 明海大学学長

(オブザーバー) 村田 善則 文部科学省高等教育局医学教育課長

◎部会長 ○部会長代理 (五十音順、敬称略)